

本 12月12日前着

## 第二一號

羅馬電報トシテ當地新聞ノ報道スル處ニ依レハ最近「エチオピア」及伊領「ソマリー」國境地方ナル「ウアルワル」（井水アリ交通上ノ要路ニ當ル）ニ於テ「エチオピア」兵及「ソマリー」兵トノ間ニ一衝突事變發生シ死者六十名負傷四百（以上伊太利側ノ死傷者、「エチオピア」側不明）ヲ生シタルカ右ハ「エチオピア」兵力同地方ニ駐屯セル伊領「ソマリー」兵ヲ攻撃セル爲ナリトナシ伊太利政府ハ「エ」國ニ對シ抗議ヲ爲シツツアリト傳ヘラル又他方「アジスアベバ」ヨリノ「ルーター」通信ニ依レハ本事變ハ前顯地點

ヲ通過スル土民ノ家畜ニ對スル糧秣供給問題ニ關シ關係當局ト商議ノ爲同地方ニ派遣セラレタル英國及「エチオピア」兩國委員ノ護衛兵ニ對シ「ソマリー」兵力攻擊ヲ加ヘタルニ始マレリト報シ「エチオピア」側ハ其ノ責ヲ伊太利側ニ嫁シツツアリ本事變ノ眞相ニ付テハ明カラサルモ從來同方面ノ國境設定並ニ前記家畜糧秣供給問題ニ關シ兩國間ノ關係兎角圓滿ヲ缺ケルニ鑑ミ今事變ハ之ニ其ノ端ヲ發セルモノノ如ク目下「エチオピア」政府ハ伊太利側ノ國境地方ニ於テ七十五哩ニ亘ル「エチオピア」領域ノ軍事的占領並ニ同國境ヨリ百哩ノ地點ニ在ル「ウアルワル」ノ占領ニ對シ伊太利政府ニ抗議ヲ爲セルト共ニ本問題ヲ國際聯盟ニ提議スルニ決シタリト傳ヘラル

## 2 ブラジルにおける移民制限問題

480 昭和9年1月27日 在サン・パウロ内山總領事より

広田外務大臣宛(電報)

状況悪化傾向にある当國排日法案問題について  
在本邦ブラジル大使に外務次官より注意喚  
起方稟請

サン・パウロ 1月27日後発  
本 省 1月28日前着

## 第一七號

重光次官へ

今回伯刺西爾憲法議會ニ於ケル排日修正案ハ往年「ファイデンスレイス」案ノ暗示ヲ受ケ潛行的ニ計畫セラレ居タルコト大使館ヨリノ隨時報告ノ通ニシテ其ノ性質ハ前記「レイス」案提出當時ニ優リ根據深キ上政界不安定ニ依リ之ヲ抑制スルニ信賴スヘキ人物及方法無ク此際之カ對策ヲ誤ルニ

於テハ日本移民ノ將來ニ取り重大ナル禍根ヲ殘スモノト認  
(欄外記入) メラル處「リオ」ニ於テハ外務大臣カ昨年末以來辭職ノ

九 雜件  
(欄外記入) 優ナル上林大使ハ時局ニ對シ當方ト見解ヲ異ニスルモノノ  
件

(欄外記入)  
關係説明アリ度シ  
大急

移民の入国を制限する条項案の阻止措置につき

サン・パウロ総領事とも協議の上回電方訓令

付記作成日、作成局課不明

「移民情報」掲載の排日法案成立経緯一覧表

本省 2月2日後5時40分発

第八號

近年政府ニ於テハ國費多端ノ際ニモ拘ラス多額ノ經費ヲ支出シ移植民事業ノ助成ニ努メ殊ニ伯國ニ對シテハ特別ノ注意ヲ拂ヒツ、アルコト御承知ノ通ナル際伯國議會ニ排日案ノ提出ヲ見タルハ甚々遺憾ナルカ貴電第四號ノ通り既ニ本會議ニ於テ問題トナリタル次第モアリ勢ノ赴ク所必シモ樂觀ヲ許サ、ルヘク假令貴官御見込ノ通り委員會ニ於テ普通法律事項ハ憲法中ニ挿入セストノ方針ヲ貫徹シ得ルトスルモ新憲法草案第一二八條補款第二ノ如キ伯國側トシテハ一應尤モノ規定モ我方トシテハ甚々好マシカラサル義ニテ右ノ可決セラル、限り本邦移民ハ後日絶エス問題ノ中心トナリ我移植民政策上極メテ面白カラサル事態ヲ誘致スルニ

(付記)

移 政 府 原 案 中 の 民 條 項	議員の提出せる第一次修正排日的條項
第三十三條 本條に於ける議會の権限中に移民に關する立法は聯邦議會に屬する旨を規定す	(A) 「ミゲール・コート」修正案 (1) 「アフリカ」人及「アフリカ」起原の移民は之を禁止す、亞細亞移民は國內に現存する同移民の總數に對し毎年其百分の五の比率を限り同意す (2) 州は本條の規定に反して移民の誘入を契約することを得ず (B) 「アルツール・ネイバ」修正案 入國移民は白人種分子に限り許可す、國內何れの地點に於ても團體的集中を禁す
第一百一十八條 補款 第一 聯邦法は國利に鑑み入移民及出移民を禁止制限若は獎勵すへし	(C) 「シャビエール・デ・オリベイラ」修正案 定住の爲には其何れより来るを問はず黒人種及黃色人種分子の入國を禁す (D) 「モンテiro・バーロス」修正案 日本人等同化至難なる民族の同化助成の目的を以て技術機關を設立し同化の難易に應し其配布定住方を研究指定せしむへし
教育の部に分配同右	二六委員會分擔委 員會(各名に於ける審議 二六委員會小委員會 に於ける修正 經濟及社會の部に分配同右 雜則の部に分配同右

至ルヘク延テ日伯間親善關係ニモ惡影響ヲ齎ラスノ虞有之ニ付テハ前記排日修正案ノ阻止ハ勿論右第一二八條補款移植民入國制限規定モ後日本邦移民排斥ノ禍因ト爲ラサル様適當修正セシムルカ又ハ全案ノ通過防止ニ付此ノ上共最善ノ措置ヲ講セラレ度向本件今後ノ見込及對策ニ付内山總領事トモ御協議ノ上責見回電アリ度シ  
本電本大臣ノ訓令トシテ「サンパウロ」へ轉電シ参考トシテ其他ノ管下各館へ暗送アレ

二六委員會に 於ける修正	議員提出第二二次修正案	二六委員會に 於ける審議に 可決通過(五月十四日)	憲法制定議會に 於ける表決
<p>第七條 左の事項は聯邦に專屬す</p> <p>第十條 <sup>(付)</sup>左記事項に付立法することとG、植民及入移民、但し入移民に就ては之が方針を立てては之を規律し若は之を禁止することを得へし</p> <p>第一百五十二条 法律は移民の同化を確保する意議に於て國利に副ふへし</p>	<p>(1) 第四條左記権限は特に聯邦に屬す G、外國人の歸化入國及追放犯人引渡出移民及入移民を附して自由とする (大州議員團共同修正案)</p> <p>(2) 凡ゆる入移民の當國領土内に入ることは法律の定むる制限但し入移民に付ては之を規律し方針を定むることを要し全體に付若は出所に依り之を禁止することを得へし</p> <p>(3) 該外國人の總數に對し毎年百分の二を越ゆることを得ず補款、聯邦領土の何れの地點に於ても入移民の集中を禁ず外來者の精選配置及同化に關する事項は法律を以て之を定む(ミゲール・コート派提出修正案)</p> <p>(4) 移民分子の國民化及人種的結合に關する條件は法律を以て之を定む(附則第三條中に移民法を追加する前案及入國移民並歸化新條項を適當の個所に插入せんとするもの)</p>	<p>(1) 伯國領土への移民入國の自由は人種保全の確保並に入移民の肉體的及文化的能力の確保に必要な制限を受け且法律は集團を禁止すへし、又移民潮流に對する歩合率を決定することを得(多數報告)</p> <p>(2) 移民の伯國領土への入國は人種的完成の保障並に移民の肉體的及文化的能力の保障に必要な制限を受くへし、而して各國より毎年の移民潮流は最國近五年間に國內に定着したる當該國人の總數の二「パーセント」を越すことを得す 附則聯邦領土の如何なる地點に於ても移民の集團を禁止す且外國人の選擇定住及同化に關しては法律を以て規定すへし(少數報告)</p>	<p>可決通過(五月十四日)</p>
<p>482 昭和9年2月3日 広田外務大臣より 在ブラジル林大使宛(電報)</p> <p>在本邦ブラジル大使に対し排日法案に關し注意喚起について</p> <p>第九號 本省 2月3日後5時0分発</p>	<p>貴電第八號ニ關シ</p> <p>新憲法草案ニ第一二八條補款第一挿入セラレタル理由ハ舊憲法ニ於テ各州ニ與ヘタル自治權廣範ニ過キ種々弊害アリタルニ鑑ミ新憲法ニ於テ諸般ノ事項ニ亘リ成ル可ク中央集權トスル方針ノ下ニ從來聯邦及州ノ法律ヲ以テ取扱ヒ來レル移民問題モ亦之ヲ中央政府統制下ニ置カントスル趣旨ニ出テタルニ外ナラス右規定ノ字句ヲ見ルニ革命政府樹立以來行ヒ(脱?)移民政策ノ現狀維持ヲ目的トスルモノニシテ特ニ我カ移民ヲ禁止又ハ制限セントスルモノニ非サルハ勿論之カ爲將來排日運動(二)特ニ新氣勢ヲ與フト看做スコトヲ得ス抑々當國ニ於ケル排日運動八十年前ノ「レイス」案ト云ヒ今回ノ四修正案ト云ヒ何レモ符節ヲ合セタル如ク其ノ根本ヲ貫ク共通思想ハ人種及優生學上ノ見地ヨリ本邦人カ同化困難ナリトスル點ナリ而シテ此ノ種排日論ハ遺憾乍ラ憲法上ノ規定如何ニ拘ラス日本人カ日本人タル以上必ス擡頭スヘキ議論ニシテ我方トシテハ今後トモ每議會同様ノ議論現ハル可キヲ覺悟セサル可カラズ唯幸ヒ往年加州ノ場合ト異ナリ人種論以外ノ經濟的政治軍事的動機ニ基ク排日論無ク然モ當國朝野ノ對日感情頗ル良好ナルヲ以テ此ノ種</p>	<p>可決通過(五月十四日)</p>	<p>憲法制定議會に於ける表決</p>
<p>483 昭和9年2月7日 在ブラジル林大使より 広田外務大臣宛(電報)</p> <p>本邦移民の排斥を目的とした四修正案の通過阻止に努める方針について</p>	<p>「サンパウロ」へ轉電アリ度シ</p>		

リオ・デ・ジャネイロ 2月7日後発  
本 省 2月8日前着

少數排日論者ハ容易ニ輿論ノ支持共鳴ヲ得難ク今回ノ如キ重大時ニ際シテモ新聞ハ勿論議會内ニ於テモ自發的ニ我力移民辯護ヲ爲スモノアリスル雰圍氣ニ於テ當館並ニ在聖(市)總領事館ノ諸工作ハ頗ル便宜ヲ得居ル次第ナルニ付此ノ種議論ノ存在ヲ以テ必スモ直ニ我カ對伯移民事業ノ將來ニ暗影ヲ投スルモノト憂慮スル要無シト認メラル  
他面憲法議會召集以來移民問題ハ最近ノ「アツシリヤ」人誘入ノ件ト相俟チテ相當朝野ノ視聽ヲ刺戟シ特ニ憲法議會ニ於ケル演説等ノ結果本問題力實際ノ價值以上ニ重要問題ナルヤノ印象ヲ深カラシメ之カ爲憲法議會トシテモ此ノ際第一二八條補款第一程度ノ條項ヲ設クルヲ必要トスル情勢ニシテ現ニ當館特殊關係ノ筋ヲシテ探査セシメタル結果ニ十六人委員會委員長並ニ政府與黨院內總務等ノ間ニ移民問題ニ關シテハ該條項ヲ存續セシメ其ノ他ノ修正案ハ一切之ヲ排除ス可キ旨ノ諒解成立シ居レル趣確報ニ接シ居リ又親日派議員モ排日修正案ヲ葬リ去ル手段トシテハ草案第一二八條補款第二ヲ生カス外無カルヘシト觀察シ居レリ旁貴電御來示ノ同補款ノ通過防止乃至其ノ修正ハ他國ノ立法權ニ干與シ却テ理解アル親日家ノ同情ヲモ失フ惧アルノミナラ

ス敍上ノ形勢ニ鑑ミ當館トシテハ差當リ全力ヲ他四案ニ集中シ何等實害無シト認メラル同補款ニ對シテハ積極的ニ手ヲ付ケサル方針ニテ進ミニ度キニ付右様御諒承相成度シ尙此點ニ關シテハ内山總領事モ同意見ナリ  
「サンパウロ」へ轉電セリ管下各領事へ暗送セリ

484 昭和9年3月3日 在ブラジル林大使より 広田外務大臣宛(電報)

ブラジルの經濟發展に本邦移民は有益な要素であり排日事項が憲法に採用されることはあり得ないとのヴァルガス長官の発言について

リオ・デ・ジャネイロ 3月3日後発

第三二號

本 省 3月4日後着

往電第二八號ニ關シ

二日「ペトロボリス」ニ於テ「バルガス」長官ニ面謁シ本使北伯旅行中憲法制定議會ニ於テ排日議員等ノ猛烈ナル日本移民反対演説アリタル事ヲ新聞紙上ニテ散見シタルカ之カ爲萬ニモ排日的修正案ノ何レカカ新憲法中ニ採用セラ

485 昭和9年3月7日 在サン・パウロ内山總領事より 広田外務大臣宛(電報)

修正法案中の「同化」は米国の「帰化不能外国人」同様入国制限の手段となりうるに付き 削除に努めるべきとの意見具申

サン・パウロ 3月7日後発

本 省 3月8日前着

合第一四號

本官發伯宛電報

シタル處長官ハ伯國人ハ一般ニ日本移民ヲ我國ノ發達就中經濟的進歩ニ有益ナル要素ト認メ居レリ貴使ノ述ヘラレタル如キ方法ヲ以テスレハ伯國人ノ數多キ「サンパウロ」州ニ於テ十萬廿萬ノ日本移民ハ容易ニ吸收セラルヘク北伯ニ於テモ何等憂フヘキ所無シ況シヤ一部少數論者ノ所謂帝國主義云々ニ至リテハ余ハ何等伯國ニ影響スルモノニ非スト信シ居ルモノニシテ之ヲ恐ルヘシトスルハ伯刺西爾ノ前途ヲ信賴セサル者ノ杞憂ニ過キス又二三ノ輩ハ其學識ヲ衒ハシカ爲カ或ハ何等爲ニスル所アリテカ種々ナル口實ヲ設ケテ貴國移民ニ反対セルモ彼等ノ言ハ學者ノ空論乃至感情論

## 第一四號

新憲法草案(一五一條)ハ排日議員全部ヲ満足サス爲特ニ挿入セラレタルモノニテ極メテ婉曲ナル排日的條文ナルコトハ今次ノ憲法會議ニ於テ爲サレタル多數排日議員ノ主張全部カ同條ノ同化ナル文字ニ包含セラレアル點ヨリ見テ疑問ノ餘地無ク且ツ極メテ意義ノ不明瞭ナル「同化」ナル文字ヲ特ニ同條ニ使用セルハ北美ニ於ケル各種排日立法ニ使用セラレタル「歸化不能外國人」ノ例ニ倣ヒ將來單行法制定ノ際「日本人」又ハ「黃色人種」等ノ文字ヲ使用セス「不同化ナル外國人」ナル文字ヲ使用シ間接の二排日ノ目的ヲ達セントスル極メテ巧妙ナル手段ナラスヤトモ思考セラル果シテ然リトセハ將來我移民カ不同化ナル理由ニ依リ其ノ入國ヲ制限又ハ禁止セラレタル場合我方トシテ最惠國待遇又ハ正義、公正ノ基礎的觀念ヲ以テ之ニ對抗セントスルモ極メテ不利益ノ立場ニ立タサルヘカラス此ノ際第一五二條ノ削除ニ全力ヲ注クコト將來ノ爲得策ナリト確信シ不敢大臣宛往電第四三號ノ通り工作シ置キタル次第二付貴方ニ於テモ若シ御同感ナルニ於テハ此ノ際可然キ方法ニ依リ目的貫徹ノ爲御盡力ヲ得ハ幸甚ナリ

大臣へ轉電シ管下各領事へ暗送セリ

新憲法草案(一五一條)ハ排日議員全部ヲ満足サス爲特ニ挿入セラレタルモノニテ極メテ婉曲ナル排日的條文ナルコトハ今次ノ憲法會議ニ於テ爲サレタル多數排日議員ノ主張全部カ同條ノ同化ナル文字ニ包含セラレアル點ヨリ見テ疑問ノ餘地無ク且ツ極メテ意義ノ不明瞭ナル「同化」ナル文字ヲ特ニ同條ニ使用セルハ北美ニ於ケル各種排日立法ニ使用セラレタル「歸化不能外國人」ノ例ニ倣ヒ將來單行法制定ノ際「日本人」又ハ「黃色人種」等ノ文字ヲ使用セス「不

486 昭和9年3月9日 在ブラジル林大使より  
本 省 3月9日後着 広田外務大臣宛(電報)

中央への工作については大使館との協議を経て行つようサン・パウロ總領事への注意喚起

リオ・デ・ジャネイロ 3月9日前發

第三八號 本官發「サンパウロ」宛電報

第一五號

外務大臣宛貴電第四三號及本使宛貴電第一四號ニ關シ同化問題ニ對スル我方立場ハ御承知ノ通事實問題トシテ本邦移民カ同化性ヲ有シ且我政策トシテモ其同化ヲ助成シテ伯刺西爾官民ノ期待ニ副ハシムルニアルヲ以テ憲法案中ノ同化ナル文字カ特ニ本邦移民ノ將來ニ支障アルモノトシテ其削除ヲ求ムルハ却テ我移民不同化ノ事實ヲ肯定スル嫌アルノミナラス表面ノ解釋上我移民ノミヲ目(的)トスルモノト言フヲ得サル憲法案ノ條項ニ關シ此ノ際我官憲トシテ公

今後ノ修正ニ付テハ本會議第二讀會ノ機會ヲ存スルモ既ニ去ルニ二月二十七日「コウト」ノ排日演說ニ際シ如實ニ示サレタル「サンパウロ」議員團ノ態度ニ照ラシ又大統領選舉問題ト關聯シ憲法案議事手續トシテ成立セル政治的妥協等ノ事情ニ顧ミルモ今更修正案ニ對スル後援ヲ集メ其通過ヲ期スルカ如キハ最早殆ント問題トナラサル形勢ニアルコト累次ノ往電ニテ夙ニ御承知相成居ルヘキ筈ニシテ本件貴方ノ工作ハ遺憾乍ラ早マレルノ嫌アリ尙今後共此種中央ニ於ケル重要問題ニ關シ何等カ手段ヲ講セラルル場合ニハ豫メ當方ト御打合セノ上實行セラルル様致度シ

大臣へ轉電セリ

487 昭和9年3月9日 在サン・パウロ内山總領事より

広田外務大臣宛(電報)

今後は積極的行動を差控えるとのサン・パウ

ロ總領事回電

サン・パウロ 3月9日後着

セス況ンヤ憲法制定手續ニ關スル最近ノ情勢ハ別電合第三五號ノ如ク十四名ノ贊成署名アル修正出揃ノ上其ノ印刷ヲ了シ居リ

## 本官發伯宛電報

### 第一六號

貴電第一五號拜承本件ハ既往ノ經過ニ鑑ミ閣下ニ於テモ素ヨリ御同感ノコトト信シ事態急ヲ要シタル爲大臣宛往電第団三號ノ如キ措置ニ出テタル次第ナル處御來示ノ次第モアリ此ノ上何等積極的行動ニ出ツルコトハ差控フヘキモ今後何等カノ形ニ於テ其反響力現ハレタル場合ハ伯刺西爾側ノ自發的行動ト看做シ傍観ノ態度ヲ持セラルヲ得ハ貴電御來示ノ如キ問題ハ生セサルヘシト思考セラル但シ萬一本件ニ關シ貴大使ノ意見ヲ徵セラルカ如キ場合ニハ成ル可ク當方ノ主張ニ有利ナル様應酬方御配慮仰キ度シ大臣ニ轉電シ管下各領事へ暗送セリ

488 昭和9年3月11日 広田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)  
本省 3月11日前11時40分発  
第一七號(至急)

「同化」という字句を起因とする問題が生じ  
ないよう努力方訓令

489 昭和9年3月12日 広田外務大臣宛(電報)  
在サン・パウロ内山總領事より  
帝国議会において大臣よりブラジル移民と日伯国交についての所見を述べられたしとの意見具申

490 昭和9年3月12日 サン・パウロ 3月12日前  
在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)  
本省 3月13日前着  
第四九號(至急)

三月十日當地ニ於テ目下半官報トモ云フヘキ「エスターード」紙上ニ「リオ」電報トシテ「ミゲルコート」ノ亞細亞移民伯、管下各領事ニ轉電セリ

二分制限案カ憲法審議會ニ於テ既ニ六十名ノ贊成者ヲ有スル旨掲載セラルルヤ排日云々ニ付日頃關心ヲ持チ居ル海興、伯拓、商船、東山、四邦字新聞其ノ他有志十數名十一日聖市ニ會合古屋重綱氏ヲ座長トシテ外務、拓務兩大臣ニ對シ事情ヲ訴ヘ善處方電報シ在伯刺西爾大使ニ陳情員ヲ派遣スルコトニ決議シタル外渡邊、坂谷、松田、杉浦、中村、津崎、上塚等貴衆兩院議員ニ對シ打電方打合セタル趣報告旁會本官ニモ陳情アリタルニ付官邊ニ對スル行動ハ別トシ在留民代表トシテ直接貴衆兩院ニ電報スルコトハ動モスレハ議會ニ於テ有害無益ノ論議ヲ惹起スル惧無キニアラス外務省ニ於テハ帝國政府ニ最モ有利ナル様議會ヨリ質問セシムルコトモ差支ヘ無ク在留民ノ希望ハ當方ヨリ進テ本省ニ報告スヘキニ付只今ノ所右運動ハ差控ヘラレ度シト述ヘ大體納得セル模様ナルカ直接多數在留民ノ將來ニ關係スル重大問題タル丈ケニ何レモ眞面目且緊張シ居リ運動費ノ如キモ即座ニ五〇「コントス」集マリタル趣ナリ

右ノ事態ニ鑑ミ帝國議會ニ於ケル適當ノ議員ノ質問ニ對シ貴大臣ノ御答辯カ當方面ニ及ホス影響ハ大ナルヘク日本移民及日伯國交ノ將來ニ關シ此ノ際帝國政府トシテ或ル程度

## 貴電第三八號ニ關シ

御來示ノ通同化條項ノ削除方ニ就テノ策動ハ慎重考慮ヲ要スヘキモ當方トシテハ在サン・パウロ總領事來電第四一號並合第一四號(伯刺西爾宛第一四號)ノ通將來ニ瓦テ重大ノ影響アルヤニ憂慮セラル、義ニ付假令削除方ニ關スル工作ヲ全然不可トスル情勢ニ在リトスルモ切メテ貴電第一七號修正案ニ立返ヘルカ其ノ他將來ニ向ケ「同化」ナル字句カ禍因ト爲ラサル様最善ノ努力ヲ拂ハル、様致度サンパウロニ轉電アリタシ

491 昭和9年3月13日 貴電第一七號ニ關シ  
本省 3月13日前着  
第四四號

「同化」字句の削除同様在留邦人の同化助成等の研究促進を急務とするとの意見具申

リオ・デ・ジャネイロ 3月12日後發

憲法議會ノ形勢若ハ政府當局ノ意嚮等ノ實情ニシテ多少ナリトモ可能ノ見込アルモノナラハ同化ノ文字削除ニ關シテモ充分ノ努力ヲ傾クヘキハ申ス迄モ無キ儀ニシテ現ニ當館ニ於テハ一ヶ月前當該條項案ノ判明セル當時既ニ右字句カ好マシカラサルモノトシテ當館ト聯絡有ル議員其ノ他ニ對シ其ノ改訂方ノ談義ヲ試ミタル處孰レモ悉クスル運動ノ不可ナル所以ヲ述ヘ議會ニ於ケル排日演説ニ拘ラス伯刺西爾

官民上下ノ大勢トシテハ之カ爲日本移民及日本ニ對スル厚

情ヲ失フモノニ非スシテ往年獨逸伊國兩國ニ對シテ行ハレ

タル排斥運動ノ猛烈ナリシニ比較スル時ハ今次ノ排日論ノ

如キハ啻ニ見ルヘキ反響無キノミナラス全ク問題トナラサ

ル程微溫的ノモノナリト說キ此ノ際純然タル伯刺西爾ノ内

政問題ト見做サルル同化問題ニ關シ日本側ヨリ何等力懸念

ノ情有ルヲ示スハ日本ニ對シ極メテ平靜ナル感情ヲ有スル

議員等ニ對シテモ寧口意外ノ感ヲ抱カシメ或ハ却テ其ノ眞

意ヲ疑ハシメ爲メニ本來ノ對日好感ヲ傷クル虞有リト云フ

(欄外記入一) 政府首惱者等ノ意嚮モ亦累次電報ノ通ナルノミナラス本問

ニ一致シ居レルヲ確メタル經緯モ有リ又同化問題ニ關スル

題ハ將來トモ要スルニ事實問題ニ歸スル次第ニシテ憲法上

斯ル文字ノ存否ニ拘ラス何時ト雖惹起セシメ得ヘキ處ナル

ヲ以テ我方トシテ最モ注意ヲ要スルハ伯刺西爾上下ノ對日

感情及本邦移民ノ事實上ノ狀態如何ニ存シ從テ他日同化問

題ヲ理由トスル排日論ノ擡頭ヲ未然ニ防止シ得ル様寧口在

留本邦人ノ同化助成其ノ他衛生狀態改善ノ如キ實地問題ニ

(欄外記入二) 關シ銳意研究努力ヲ爲スヲ急務トスヘク其ノ方針ヲ以テ管

下各公館トモ協力致度所存ナリ

「サンパウロ」ヘ轉電セリ

(欄外記入一)

果シテ然ルヤ?

(欄外記入二)

伯政府ニ對シ念ヲ押シ置クノ要ナキヤ

491 昭和9年3月15日 在サン・パウロ内山總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

今回の排日問題の背後には米國の関わりがあるとの説について

サン・パウロ 3月15日後発 本 省 3月16日前着

第五五號

伯刺西爾新憲法制定審議會ニ於ケル排日ノ經過ニ鑑ミニ  
其ノ主因カ人種問題ニ立脚スル「ミゲル、コウト」一派ノ  
宿年ノ計畫ニ依ルコトハ勿論革命時代ニ伴フ一部國家主義  
的思想ニ禍サレ居ルコトハ疑ナキ處ナルモ他面ニ於テ三〇  
年革命前伯刺西爾聯邦中「サンパウロ」州ノ保持セル優越

西爾ニ於ケル我利益ヲ確保伸張センカ爲ニモ我方トシテ之

ニ對抗スヘキ充分ノ用意ト覺悟ヲ以テ臨ムノ要アリ此ノ際  
本省ニ於テモ此ノ點ニ御考慮ヲ拂ハレ本件ニ對シ相當ノ重  
大サヲ與ヘラル様希望ニ不堪

伯ヘ轉電セリ

~~~~~

492 昭和9年3月17日 広田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

排日条項案についてブラジル政府に注意喚起

方訓令

本省 3月17日後5時発

貴電第四七號ニ關シ

「ネイバ」、「コート」等ノ運動ノ如キハ立法常識ノ點ヨリ

觀ルモ常規ヲ逸脱シ居リ其ノ排日條項カ本會議ヲ通過スル

コト萬無カルヘシトハ思考スルモ責任國昨今ノ政情ヲ以テ

シテハ必シモ樂觀ヲ許サヘルヘク此ノ際再應貴官ハ口頭又  
ハ覺書ヲ以テ帝國政府ノ訓令トシテ左ノ趣旨ヲ伯國政府ニ  
申入レラル、ト共ニ必要ニ應シ大統領ニモ盡力方懇談セラ

全拉典亞米利加ニ對スル我商權擴張ノ見地ヨリスルモ將來  
海外ニ於ケル我最大ノ移植民地トシテ最期待セラル伯刺西爾

ル、様致度尙排日條項ニ關スル情報等ハ相互ニ國論ヲ刺激スルノ機會無カラシムル意味ニ於テ從來當方諸新聞ニハ極力掲載セシメサル様苦心シ來レル次第付此ノ點併テ外務大臣ニ説明シ置カレ度

本件排日條項案ノ如キハ普通立法ノ手段ニ依リ制定セラル、場合ニ於テモ帝國政府及國民ハ國家的且國民的恥辱トシテ到底堪ヘ難キ所タルニ一國ノ根本法タル憲法ニ於テ大恥辱ヲ烙印セラル、カ如キ類例無キ事態ニ立到ランカ我國論ヲ激發スルハ素ヨリ兩國ノ友好關係上好マシカラサル結果ヲ招致スヘキヲ憂慮ス元ヨリ友好國議會カ斯ノ如キ舉措ニ出ツヘシトハ思考セサルモ此ノ種不幸ナル事態ヲ未然ニ防ク様伯國政府ノ盡力方ヲ懇望スサンパウロヘ轉電アリタシ

493 昭和9年3月17日

廣田外務大臣より  
在サン・パウロ内山總領事宛(電報)

#### 今後はブラジル大使と協議の上善処方訓令

本省 3月17日後8時45分発

第三四號

在伯大使ニ轉電シ在伯公館ニ暗送アリタシ

494

昭和9年3月19日 在ブラジル林大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

#### 修正案阻止に関する外務大臣との会談について

其ノ意図ヲ質スヘキヲ約セリ

リオ・デ・ジャネイロ 3月19日後  
本省 3月20日前着  
第五七號

#### 貴電第二〇號ニ關シ

其ノ後一面外務大臣ト絶エス接觸ヲ續ケ他方重ナル衆議員團首領及其ノ他ニモ間接直接ニ運動シ緩和策ヲ講シ居レル處「コート」等ノ一團ハ十七日午後迄ニ修正案提出ニ關シ百十二名ノ賛成署名ヲ得タリトノ報アリ其ノ内若干名ハ署名取消ヲ爲セルモノアルモ形勢頗ル逆暗シ難キモノアリ依テ十八日「ペトロボリス」ニ於テ外務大臣ト會見シ御訓令ノ趣旨ヲ申入レ尙帝國政府カ伯刺西爾政府ノ信義ニ依賴シ相互ノ國論刺戟ヲ避ケシムル爲如何ニ新聞紙報道ノ抑遏ニ苦心シ居ルヤヲ說聞カセ「バルガス」長官ニ於テ如何ナル處置ヲ採リツツアルヤヲ尋ネタルニ外務大臣ハ十七日「リオ」ニ於テ與黨院内總理ト會見セントンタルモ院内總理ハ「バルガス」長官ニ招カレテ當地ニ來レル爲親シク面談スルコトヲ得ス昨夜當地ニ歸リ其ノ旨秘書ヲ通シ長官ニ報告シタリ今日曜ハ長官ニ於テハ朝ヨリ遠足ニ出掛ケラレタル爲未タ面會セス今夜親シク面會シ事態ノ緊急ナルヲ報告シ

貴地加藤拓務省出張員ヨリ排日阻止ノ爲運動資金二十萬圓支出方拓務省宛電請アリタル趣ノ處「リオ」來電第四六號修正案ノ通過ノ如キハ極力之ヲ阻止スヘキハ勿論所謂同化條項等ニ關シテモ出來得レハ豫メ之ニ善處シ置クコト肝要ニシテ貴電第四九號貴地在留民ノ懸念モ至極尤ノ義ト存セラル、モ御承知ノ通り本件阻止運動ハ極メテ機微ナル掛引手心ヲ要シ政界ノ空氣ニモ疎ク又日頃伯國有力者ト特ニ密接ナル連絡モ無キモノニ於テ今日ニ至リ急ニ目立タル運動ヲ始ムルモ結果却テ如何ヤト懸念セラル、ニ付テハ之等ノ運動ニ對シテハ貴官ニ於テ御如才モ無キコト乍ラ努メテ慎重ニ措置指導相成様致度尙貴官ハ必要ニ應シ「リオ」ニ出張林大使トモ充分御協議ノ上事態ノ推移ニ應シ此上共善處方御盡力相成度シ

在伯大使ニ轉電シ在伯公館ニ暗送アリタシ

右署名ノ多數ニ上レル點ニ關シ憲法議會議長「アントニオカルロス」氏其ノ他「ミナス」「サンパウロ」「パラ」各州議員團首領及其ノ他カ本使又ハ館員ニ對シ語レル處ハ頗ル樂觀的ニシテ署名者必シモ賛成者ニアラサルヲ以テ懸念ノ要無シト爲シ居レルカ假ニ該修正案カ通過セントスモ多數ノ署名者ヲ得セシムル如キハ將來ノ爲不利益鮮カラサルヲ以テ目下其ノ防止ニ努力中ナリ

承知ノ通リナリ就テハ日本政府ニ於テモ能ク其ノ點ヲ諒解セラレ不必要ニ輿論ヲ刺戟スルカ如キコト無キ様希望ニ堪

ヘスト述ヘタリ之ニ對シ本使ハ我政府ニ於テハ素ヨリ兩國國交ノ維持ヲ懸念スルノ外他意無ク現在ハ勿論將來ニ對シ

## 覚書手交時の外務次官との会談について

495 昭和9年3月21日 在ブラジル林大使より  
リオ・デ・ジャネイロ 3月21日後発  
廣田外務大臣宛(電報)

本 省 3月22日後着

## 第六〇號

廿一日外務大臣閣議ノ爲「ペトロボリス」ニ出張不在ノ爲不取敢次官ヲ訪ヒ從來我方ヨリ伯刺西爾政府ニ對シ申入レ居レル所ヲ別電第六一號(電報)ノ通覺書トシテ手交シ更ニ貴電第二七號御訓令ノ次第ヲ口頭ニテ懇談的ニ申入レタル處次官

ハ今朝東京ヨリ「アマラル」大使ノ電報ニ接シタルカ同大

使ハ日本政府ノ申出ニ依リ頗ル當惑シ居レリト述ヘ本問題ハ目下伯刺西爾政府ニ於テ日伯兩國親善ノ好ニ鑑ミ兩國國交ヲ害スルカ如キ結果ニ陥ラサル様最善ノ努力ヲ拂ヒツツアリ唯憲法制定議會ナルカ爲政府ヨリ之ニ壓迫ヲ加ヘタリトノ印象ヲ起サシメ却テ反感ヲ唆ルカ如キ結果トナラサル様慎重ナル注意ヲ拂ヒツツアル次第ハ貴使ニ於テモ特ニ御

明二十二日更ニ外務大臣ト會見ノ筈ナルカ「アマラル」大使ノ電報ハ次官ノ口吻ニ依レハ伯刺西爾外務省トシテハ寧ロ意外ノ感ヲ以テ受ケタルカ如ク伯刺西爾政府ハ本問題ヲ一般ニ知ラシメス闇ヨリ闇ニ流產セシメ度キ希望ニテ我方ノ諒解ヲ切望シ居レリ右ハ本使ニ於テモ當地ノ政情ヲ考察シ御承知ノ如キ羅典民族ノ心理ニモ注意ヲ拂フ時至極當然致シ難シト述ヘタリ

ト認メラルル處置ニシテ我方ニ於テモ之ヲ支持シ我カ希望ノ貫徹ヲ努ムルヲ最善ノ策ト信シ居レリ  
二十一日東京發聯合ト思ハル電報ハ外務省「スポーツマン」ノ言トシテ伯刺西爾政府ニ何等「サゼスシヨン」ヲ與フル様大使ニ訓令セリトノ報道ノ如キ最近當地新聞ニハ移民問題ニ關シ殆ト記事掲載ヲ見サル折柄却テ一般伯人ニ「トピック」ヲ提供シ或ハ憲法制度ニ何等干涉ヲ加ヘルニ非スヤトノ疑念ヲ起サシムルコト無シトセス本使ハ伯刺西爾政府ヲ動カシテ本問題ヲ表面化セスシテ葬ランツル工作カ此ノ種報道ノ爲破壞セラルルコト無キヤヲ惧レ今後ノ御注意ヲ希望シテ已マス  
聖市ヘ轉電セリ

496 昭和9年3月22日 在ブラジル林大使より  
在ブラジル林大使宛(電報)

形勢悪化の状況と推されるにつきこの上はあ  
らゆる手段により努力すべき旨訓令

本省 3月22日後6時発

497 昭和9年3月22日 在ブラジル林大使より  
在ブラジル林大使宛(電報)

ブラジル政府の議会対策については極秘裡に  
行うため同政府を信頼し交渉推移も発表を避  
けるべきとの意見について

リオ・デ・ジャネイロ 3月22日後発  
本 省 3月23日後着

## 第六六號

二十二日外務大臣ニ會見シ往電第六〇號所報次官ニ爲セルト同様ノ申入ヲ爲シ伯刺西爾政府ノ意向及目下執リツツアル處置ヲ質シタルニ大臣ハ「政府ノ態度ハ當初ヨリ毫モ變ル事無ク貴我兩國親善關係ノ維持増進ノ趣旨ニ基キ目下一部議員ノ提出セントシツツアル排日案ニ關シテモ最善ノ處置ヲ怠ラス唯臨時政府トシテハ法理上ニモ又議員ニ對スル之迄ノ聲明ニモ鑑ミ憲法制定議會ニ干渉スルノ權限無キ立場ニシテ從テ將來成立スヘキ憲法條項ニ關シ何等保障ヲ與フルヲ得サルモ憲法條項トシテ人種的差別ノ規定ヲ見ルカ如キ事無カラシカ爲ニハ今後共全力ヲ盡サントスルモノナル事ヲ斷言スルコトヲ得此ノ點ニ關シテハ日本政府トシテモ當國政府ニ信賴セン事ヲ望シテ止マス而シテ政府カ憲法議會ニ干渉ヲ加フル如キ印象ヲ議員ニ與フルハ却テ事ヲ損フ基トナルヘキヲ以テ凡テノ工作ハ極秘裡ニ取扱フ事ヲ要シ唯今モ内務大臣議會議長及院内總理ト打合ヲ爲シ來レル次第ナルカ日本政府ニ於テハ伯刺西爾政府ノ右ノ立場ト目

聖市へ轉電セリ

498 昭和9年3月23日 広田外務大臣より 在ブラジル林大使宛(電報)

情報部長との質疑内容を歪曲しブラジルは満州より良好な移民の捌け口と報道した新聞記者への注意喚起について

本省 3月23日後8時45分発

第三三號

貴電第六三號ニ關シ

廿一日A.P特派員情報部長ヲ來訪シ伯刺西爾移民問題ニ關

シ質問中今回ノ排日移民法案通過スル場合ハ所謂「グレーヴ、コンセクエンス」ヲ生スルモノナリヤ又毎年「ブラジル」移民ハ滿洲國移民ヨリモ多數ナリヤトノ質問アリシニ對シ同部長ハ「グレーヴ、コンセクエンス」ヲ云爲スルハ適當ナラサルモ右ノ法案通過ノ場合ハ日伯親善關係ニ由々敷影響ヲ及スヘク又現在ニテハ伯刺西爾行移民ハ滿洲行ヨリ多シトノ趣旨ニテ答ヘタルモノナルカ其ノ發電ニハ伯刺

西爾ハ滿洲ヨリモ良好ナル日本移民ノ捌け口ナリ云々トア下ノ政情トヲ理解セラレ本大臣ト貴大使トノ接衝又ハ伯刺<sup>(刺カ)</sup>西爾政府カ議會ニ對シ爲シツツアル工作等ニ關シテハ絕對等ノ修正案ハ最近ノ情報ニ依レハ署名者九十五名ナリトノ趣ナル處要スルニ事ヲ荒立テスシテ所期ノ目的ヲ達センカ爲最善ヲ盡シツツアリ尚又同化條項ニ關スル日本側ノ懸念ノ趣旨ハ深ク諒トスル處ナルモ同條項ハ日本移民ノミヲ目的トセルモノニアラサルヲ以テ將來ニ對シテモ御心配ノ理由無キヲ以テ安心セラレタシ」ト述ヘタリ

本使ノ所見ニ依レハ伯刺<sup>(刺カ)</sup>西爾政府ハ曰下誠意ヲ以テ憲法制定議會ニ於ケル排日運動ヲ不成功ニ終ラシメント努力シ居リ其間政府ノ立場及政情ノ關係上凡テノ工作ヲ極秘裡ニ行フ事ノ極メテ必要ナルハ申迄モ無ク我方トシテハ差當リ之ニ信賴シ當分交渉ノ推移モ其發表ヲ避ケ以テ伯刺<sup>(刺カ)</sup>西爾政府ノ對議會工作ニ支障無カラシムルヲ繫要ト思考セラル素ヨリ形勢ノ逆睹シ難キモノ無キニアラサルモ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ敢テ悲觀スヘキ狀態ニアラス貴電第二八號末段「バルガス」長官トノ會見ハ當地政情ノ機微ニモ顧ミ適當ナル時機ヲ考慮中ナリ

リシコト發見セルニ付注意シ置キタリ爲念

499 昭和9年3月24日 広田外務大臣より 在ブラジル林大使宛(電報)

衆議院本會議におけるブラジルの排日条項に

関する答弁について

別電 三月二十四日発廣田外務大臣より在ブラジル林大使宛第三六号

右答弁

第三五號

本省 3月24日後9時40分発

二十三日衆議院本會議ニ於ケル政友會代議士中村嘉壽ノ質問ニ對シ二十四日本大臣ヨリ別電第三六號ノ通り書面ヲ以テ答辯シ置キタリ

本電別電ト共ニ「サンパウロ」ニ轉電シ「サンパウロ」ヲシテ在伯公館ニ郵送セシメラレタシ

(別電)

本省 3月24日後10時発

第三六號

「ブラジル」憲法制定議會ニ於テ一部議員ヨリ日本移民問題ニ關シ相當論議行ハレ日本移民ヲ含メタ亞細亞人排斥條項案ヲ提出シタ者アリマシタカ右ハ起草委員會ニ於テ採擇スル處トナラス一般外國移民ノ同化ニ就テ規定(草案第一六一條)カ採擇セラレタノテアリマス依テ前顯亞細亞移民排斥條項挿入ノ目的ヲ達シナカツタ一部ノ議員ハ目下開會中ノ本會議ニ於テ遮二無ニ之カ蒸シ返シヲナサントシ亞細亞移民一年ノ入國數ヲ現在伯數ノ二分ニ制限セントスル修正條項ノ本會議提出方ニ就テ目下賛成議員ノ獲得ニ奔走中ノ趣テアリマス

抑々「ブラジル」ニ對スル本邦移民ハ優良ナル農業移民ニシテ其ノ「ブラジル」ノ國土及產業ヘノ貢獻ハ同國識者ノ夙ニ認ムル處トナリ我カ移民ハ「ブラジル」將來ノ發展上實ニ有益ナル要素ト認メラレテ居ルノテアリマス。近年「ブラジル」ハ失業問題ノ關係上一般外國移民ノ入國ヲ制限シ來レルニモ拘ラス我カ移民ニ對シテハ年々可成ノ數ノ自由入國ヲ許容シ來レル如キ右ノ消息ヲ有力ニ物語ルモノト信スルノテアリマス。

一方帝國政府トシテハ在伯邦人力善良ナル「ブラジル」住民トシテ同國ノ發展ニ貢獻スルコトハ畢竟彼我兩國ノ親善ヲ增進スルモノナルコトヲ確信シ從來此ノ見地ヨリ在伯邦人ヲ勸奨シ在伯邦人モ右ニ依リ着々同國ノ開發ニ努メ來ツタノテアリマス。從ヒマシテ今回日本移民ノ不同化云々カ論議セラレ他面憲法中ニ同化條項挿入セラレ動モスレハ日本移民ニ對スル規定ノ如ク解セラレントスルカ如キハ甚タ遺憾ナル現象ニシテ帝國政府トシテハ日伯友好關係維持ノ見地ヨリシテ夫々出先官憲ヲシテ適宜善處セシメツツアリマス

從來日本移民ヲ大ニ歡迎シ來レル「ブラジル」ニ於テ今回日本移民入國差別制限ノ條項ヲ憲法中ニ挿入セントスルノ運動起ルニ至リマシタコトハ實ニ帝國政府ノ心外トスル處デアリマス。尤モ此ノ如キ運動ヲ畫策シツツアルハ一部少數者デアツテ多數ノ者ハ日伯ノ傳統的友誼關係ト我カ移民ノ實情ニ鑑ミ冷靜穩健ナル態度ヲ採リ同國ノ輿論モ亦大体公正ナル判斷ヲ下シツツアルノテアリマス。然シナカラ若シ萬々一右實現スルカ如キコトトナリマスレハ是レ實ニ日伯親善ノ歴史ニ汚點ヲ附スルモノニ外ナラス依テ現ニ存ス

ル親善良好ノ關係ニ萬ニモ將來暗影ヲ投スルカ如キコトヲ前以テ防イテ置キタイト云フ意思ヨリ我カ政府ハ本件ニ對シ十分ニ出先官憲ヲ督勵シテ最善ノ努力ヲ盡サシメツツアルノテアリマス。尙外交ノ衝ニ當ルヘキ使臣ノ人選ヲ慎重ニ適材適所ノ方針ニ據ラナケレハナラナイ事並今後ノ重要外交ニハ國內ノ有ラユル人材並機關ヲ總動員シテ之ニ當ルヘシ等ノ御意見ニ對シテハ政府モ趣旨ニ於テ同感テアリマシテ出來得ル限り其方針ヲ以テ進ンテ居ルノテアリマス。

500 昭和9年3月26日

廣田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

法案よりの同化条項の削除、修正等について

交渉方訓令

本省 3月26日後9時発

第三九號

草案第一六一條ニ關スル貴方ノ見解並ニ伯國政府側ノ説明ニヨレハ同條項ハ特ニ本邦移民ヲ目的トセルニ非スシテ一般移民ノ伯國同化確保ヲ規定セルモノナル趣ナルモ憲法規定中ニ斯ル曖昧ナル字句ヲ以テ入移民ニ對スル同化方針ヲ

規定セラル、ニ於テハ伯國現政府ノ意嚮如何ニ拘ラス將來如何様ニモ解釋セラレ當局ノ更迭時代ノ推移ニ伴ヒ入移民ノ制限其他在伯移民ノ權利制限等ノ根據ヲ該規定ニ求メ排日的差別法律案提出ノ機會ヲ多カラシムル懸念アリ殊ニ今回該條項採擇ニ先タチ議會ニ於テ日本移民カ不同化ナル理由ヲ以テ攻撃セラレタル經緯モアレハ右ヲ此儘存置スル時ハ爾今日本移民ハ常ニ不安ノ地位ニ置カル、危險ヲ免カレ難ク右ノ點當方ノ憂慮ニ堪ヘサル所ナリ又右同化條項削除ニ關シテハ伯國側ニ於テスラ「ウルピアノ」議員等ノ運動モアリ此際之カ削除又ハ修正必ラスシモ絶望トモ認メラレサルニ付テハ屢次當方申進ノ次第ニ依リ右同化條項ノ削除又ハ修正或ハ字義ノ明瞭化ニツキ至急先方ト御交渉ノ上何分ノ義<sup>(義)</sup>御回電アリタシ

501 昭和9年3月27日

在ブラジル林大使より  
廣田外務大臣宛(電報)

同化条項削除等の場合も効果少なくかえつて  
状況を悪化させるのみにて交渉は行わない旨  
意見具申

同化条項削除等についての交渉を今後は差控えることが良策とのサン・パウロ総領事の意見

リオ・デ・ジャネイロ 3月27日後発

本 省 3月28日後着

省 3月28日後着

法典編纂ノ技術ヨリ言へハ問題ト爲シ得ヘケンモ外國側ヨリ之ヲ國際問題ト爲シ得ヘキ性質ノモノトハ信スルヲ得ス。今次ノ憲法議會ニ於テ本邦移民攻撃ノ一理由トシテ其ノ不<sup>(1)</sup>同化ヲ云々セルモノアルハ事實ナルモ我移民ニ對シ其ノ不

同化ヲ語レル者ハ今回ニ始マルニ非ス往年「レイス」法案ノ際ニモ同様ノ議論アリシニ拘ラス實地調査委員ノ報告ハ我移民ニ關シ却テ有利ナル認識ヲ齎ラセル結果トナリ居リ而モ今回ノ排日論議ナルモノハ一方ニ十六人委員會カ專ラ

憲法ノ審議ニ鞅掌中他方何等實務ニ關係無キ議場ニ於テ有閑議員ヲ相手トシ所謂排日議員カ虛實ヲ交ヘタル感情論ニ於テ賣名的ニ述ヘラレタル所ニシテ當時憂慮セラレタルカ如ク一般輿論ノ著シキ反響モ無ク又憲法議會ノ問題トシテモ殆ト眞面目ナル注意ヲ喚起スルニ至ラス從テ排日演説中ノ「不<sup>(2)</sup>同化」ト第一六一條中ノ「同化」トハ解釋次第二テハ我方ニトリ多少面白カラサル聯想ヲ起シ易キモノアリトハ言ヘ之ヲ以テ根本的規定タル同條ノ削除若ハ修正ヲ求ムル理由ト爲シ得ヘシトハ考フルヲ得ス。

我<sup>(2)</sup>移民不<sup>(3)</sup>同化ノ問題ハ今日尙未タ當國一般識者ニ依リ首肯セラル所ニ非ス伯刺西爾側トシテハ政府部内ハ勿論憲法制定ノ過程ニ於テ毫モ排日ノ息ノ掛リタルモノニ非サルコト累次ノ往電報告ノ通ニシテ唯之ヲ憲法條項トスルコトハムル所ト想察セサルヲ得ス然ルニ本條項ノ關スル限り其ノ制訂ノ過程ニ於テ毫モ排日ノ息ノ掛リタルモノニ非サルコト累次ノ往電報告ノ通ニシテ唯之ヲ憲法條項トスルコトハ

議會内外ノ大勢トシテモ殊ニ一般有力者間ニアリテハ我方ニ對シ極メテ理解アル同情ヲ示シ良ク我方説明ノ移民政策ヲ諒トシ寧口本邦移民ノ同化ニ付多クノ期待ヲ懸ケ此ノ點ニ關シ彼我一致ノ方針ヲ以テ將來ニ望マントシツツアリ從テ今後通常議會開カル際本邦移民ニ對シ何等カ排斥的立法ヲ企圖スル場合アリトスルモ第一六一條存置ノ當然ノ結果トシテ現ハルルモノト言フヲ得ス將來ノ排日問題ハ全ク同條ノ有無ニ拘ラス主トシテ我移植民カ伯刺西爾側ノ期待ニ叶フヤ否ヤノ事實問題ニ基キ或ハ起リ或ハ消滅スルモノト言フヘシ要之同條項カ曰伯國交ノ親善ニ有害ナリトスル御考慮ハ伯刺西爾側トシテ到底其ノ理由ヲ會得シ難カルヘキ所ナルヲ以テ今日飽ク迄同條項ノ削除若ハ修正ニ關シ此ノ際我方ニ於テ强硬ナル要望ヲ持シテ止マサルモノトセハ或ハ日本官憲カ其ノ對伯移民將來ノ不同化ヲ危惧スルモノナルカ又ハ政策トシテ其ノ同化ヲ喜ハサル爲ナルカ或ハ又帝國主義的傾向ノ發露トシテ敢テ内政干涉ヲモ辭セサル次第ナルカ要スルニ種々我方眞意ニ關シ疑惑ノ念ヲ抱カシムルヲ免レスシテ我自ラ恰モ排日論者ノ主張ヲ裏書スルカ如キ結果トナルナキヲ保セス換言スレハ第一六一條ノ削除若

### (付記)

リオ・デ・ジャネイロ 3月27日後発  
本 省 3月28日前着

### (付記)

内山ヨリ左ノ通

在伯大使宛貴電第三九號ニ關シ

同化條項ニ關シテハ既ニ本省ヨリ直接在京伯國大使ニ申入レラレタルコトアリ又既ニ本問題ニ關シ誠意ヲ示セル伯國政府及議會内有力議員ノ動向ニ鑑ミ右條項カ削除可能ナリトセハ恐ラク此ノ上當方ヨリ正式申入ヲ爲サストモ削除セラルヘシト察セラルニ反シ若シ今改メテ正式ニ之ヲ申入ルル場合ハ削除ノ問題ニ付現下ノ政情ニ於テ餘り強力ナラサル相手政府ヲシテ非常ナル窮地ニ陥ラシムルノミニテ效果ハ渺ク且表面日本人ヲ目標トセサル條項ニ付表ヨリ左迄

壓迫ヲ加フルコトハ却テ面白カラサル結果ヲ招ク虞アルニ  
付此ノ際「本件ニ關シテハ本邦ニ於ケル此ノ上ノ工作ハ官  
民共中止スル」ト同時ニ當地ニ於テモ政府筋ニ對スル交渉  
ハ一應差控フルヲ可トスル様思考セラル右僭越乍ラ卑見申  
進ス

聖市ヘ轉電セリ

(欄外記入)  
内山ノ意見ハ甚シク動搖スル様ニ見ユ

~~~~~

502 昭和9年4月6日 広田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

人種的偏見を意味する「同化」という字句を  
含む条項の制定は両国関係には好ましからず  
と在本邦大使への申入れについて

本省 4月6日後8時30分発

第四七號

三月廿六日在京伯國大使ノ來省ヲ求メ次官ヨリ全國憲法議  
會ニ於ケル排日議員ノ策動防遏方並同化條項ノ削除乃至修  
正案出シ今次ノ修正案受付最終日タル十三日ノ締切間近ニ  
左ノ修正案ヲ提出セリ

「憲法案第一六一條ニ代フルニ次ノ條文ヲ以テス

凡ユル入移民ノ當國領土内ニ入ルコトハ法律ノ定ムル制限  
ヲ附シテ自由トス但シ各國ノ移民流入ハ最近五十年間ニ當  
國ニ定着シタル當該外國人ノ總數ニ對シ毎年百分ノ二ヲ越  
ユルコトヲ得ス。

補填ヽヽヽヽヽ聯邦領土ノ何レノ地點ニ於テモ入移民ノ  
集中ヲ禁ス外來者ノ精選配置及同化ニ關スル事項ハ法律ヲ  
以テ之ヲ規律ス」

右修正ハ表面諸外國移民ヲ一律ニ制限スル建前トナレル爲  
其裏面ニ潛メル排日ノ意圖ヲ解セサル議員ノ贊成セルモノ  
多ク純然タル排日議員六名ヲ筆頭ニ合計百三十名ノ連署ヲ

正ニ關スル當方ノ希望ニ就テ貴官宛往電ノ趣旨ヲ敷衍シ其  
ノ盡力方ヲ申入置キタルカ超テ四月五日本大臣ヨリ全大使  
ニ對シ勲章(旭一)傳達ノ機會ニ本件同化條項ニ言及シ同化  
ナル字句カ本來人種的偏見ヲ多分ニ含ム歴史的沿革殊ニ北  
米ニ於テ同化問題ヲ理由ニ不愉快ナル排日運動ヲ見タル經  
緯ト彼是照合シ將來伯國ニ於テモ最近全化ノ文字ハ使ハス寧ロ  
次第ヲ緯述シ尙米國ニ於テハ好シカラス思考シ居ル  
「アメリカナイゼーション」ト云ヒテ差シ障リナキ言葉ヲ  
用フルニ至レル點ヲ指摘シ置キタリ

サンパウロヘ轉電アリタシ

~~~~~

503 昭和9年4月14日 在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

排日派議員が提出したすべての入移民を最近五  
十年間の定着総数の二分に制限する案について

管下各領事へ轉電セリ

~~~~~

504 昭和9年4月26日 在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

二分制限修正案に関するヴァルガス長官との  
会談について

リオ・デ・ジャネイロ 4月26日後発

本省 4月27日後着

第一一號

往電第九五號及往電第九七號末段ニ關シ先週初「バルガス」  
長官ニ謁見ヲ求メ置キタルモ長官ハ避暑地引揚前三日間他  
ニ旅行シタル等ノ事情アリタル爲漸ク二十五日面會スルコ

トヲ得タリ依テ本使ハ長官ニ向ヒ前回拜謁ノ際御配慮ヲ請ヒタル效果現ハレ排日移民修正案カ總テ委員會ニ於テ不採擇ニ終リタルハ兩國々交ノ爲ニ同慶ノ至ナルト共ニ感謝措ク能ハサル處ナルカ今回再ヒ排日議員ヨリ前同様ノ目的ヲ以テ二個ノ修正案提出セラレタリ即チ一ハ亞細亞移民ヲ百分ノ二ニ制限セントスルモノニシテ後者ハ一見併合的ニシテ何レノ國モ之ニ對シ異議ヲ挿ムヲ得サルモノノ如ク思考セラルルモ其ノ提案者カ曩ニ排日修正案ヲ提出シタル議員ナルカ上ニ其ノ實質ニ於テ日本移民ノ關スル限り何等前者ト異ナル處無ク現ニ各地ヨリ日本ニ發セラレタル新聞電報ニ於テモ排日修正案ト見ラレ居ル爲日本政府ハ本使ヨリノ累次ノ報告ニ依リ閣下並ニ閣下ノ政府ノ親日態度ヲ充分諒解シ專ラ其ノ好意ニ信賴セルニ拘ラス萬ニモ此ノ如キ移民條項カ新憲法中ニ採用セラルルカ如キコトアランカ日本官民ハ多年伯刺(刺カ)西爾官民ノ親日態度ニ信賴シ來レル丈夫レ丈大ナル輿論ノ反動ヲ惹起シ今日迄兩國カ多大ノ努力ヲ爲シテ折角築キ上ケタル親善關係及貿易ノ基礎ヲ覆ス惧アルニ鑑ミ帝國政府ハ本件ヲ頗ル重大視シ今一度閣下ニ拜謁シテ帝國政府

ノ所感ヲ開陳シ右修正案ノ通過阻止方ニ付御配慮ヲ請フ可シトノ訓令ニ接シタル旨ヲ述ヘタル處長官ハ最近國內ニ彌漫セル國民主義ハ憲法議會ニモ横溢シ議員中内國勞働者保護ノ爲ニ外國移民制限ヲ主張シ若ハ之ニ共鳴スル者鮮カラス問題ノ修正案ハ裏面ノ魂膽ハ兎ニ角表面各國移民ヲ一律ニ制限スル建前トナリ居ル爲自然共鳴者モ多カリシモノノ如ク政府トシテハ正面ヨリ之ニ反対シ兼ヌル立場ニアルモ貴國政府ノ憂慮セラルル點ハ伯刺(刺カ)西爾政府モ全然同感ナルヲ以テ兩國ノ親善關係ニ累ヲ及ホスノ惧アル條項カ憲法中ニ挿入セラルルコト無キ様既ニ適當ノ措置ヲ講シ且努力ヲ續ケツツアルヲ以テ右ノ事情實使ニ於テ篤ト御諒知相成ルト共ニ貴國政府ニ傳達アリタント答へ續イテ本使ハ親日議員等中ニハ若シ閣下ニ於テニ、三ノ議會要人ニ對シ右修正案阻止方ニ付直接内意ヲ傳ヘラルルヲ得ハ幸甚ナリト爲念申出テタル處之ニ對シ長官ハ此等要人等ニハ既ニ充分内意ヲ含マセアルヲ以テ今改メテ其ノ必要無カラントノ口吻ヲ洩スト共ニ本件ニ關シ我國ノ新聞紙上ニ挑發的記事乃至

過激ナル論說等掲載セラルル時ハ忽チ一層大袈裟ニ當地ニ電報セラレ伯刺(刺カ)西爾ノ輿論ヲ刺戟シ本件ニ關スル政府ノ對議會工作ヲ障害スル惧アルニ付此ノ點特ニ帝國政府ノ注意ヲ喚起シ置カレ度シト附言セリ

管下各領事ヘ轉電セリ

505 昭和9年5月7日 広田外務大臣より

在ブラジル林大使宛(電報)

今後の対ブラジル移民問題を中心として開催する領事会議での検討事項につき訓令

本省 5月7日後8時10分発

貴電第八五號ニ關シ

御來示ノ諸項ハ從來トモ責我雙方ニ於テ研究ヲ續ケ來レル所ナルカ要ハ我國民性ノ特點移住者ノ事情慣習心理子女教育ニ對スル觀念等併セ考量ノ上移住先ノ環境對日感情等ト現實ニ調和シ得ル實行案ヲ樹ツルニ在リト思考セラル、ニ付右趣旨ニ依リ協議セラレ尙左記事項ニ就テモ研究相成度

シ

シトノ訓令ニ接シタル旨ヲ述ヘタル處長官ハ最近國內ニ彌漫セル國民主義ハ憲法議會ニモ横溢シ議員中内國勞働者保護ノ爲ニ外國移民制限ヲ主張シ若ハ之ニ共鳴スル者鮮カラス問題ノ修正案ハ裏面ノ魂膽ハ兎ニ角表面各國移民ヲ一律ニ制限スル建前トナリ居ル爲自然共鳴者モ多カリシモノノ如ク政府トシテハ正面ヨリ之ニ反対シ兼ヌル立場ニアルモ貴國政府ノ憂慮セラルル點ハ伯刺(刺カ)西爾政府モ全然同感ナルヲ以テ兩國ノ親善關係ニ累ヲ及ホスノ惧アル條項カ憲法中ニ挿入セラルルコト無キ様既ニ適當ノ措置ヲ講シ且努力ヲ續ケツツアルヲ以テ右ノ事情實使ニ於テ篤ト御諒知相成ルト共ニ貴國政府ニ傳達アリタント答へ續イテ本使ハ親日議員等中ニハ若シ閣下ニ於テニ、三ノ議會要人ニ對シ右修正案阻止方ニ付直接内意ヲ傳ヘラルルヲ得ハ幸甚ナリト爲念申出テタル處之ニ對シ長官ハ此等要人等ニハ既ニ充分内意ヲ含マセアルヲ以テ今改メテ其ノ必要無カラントノ口吻ヲ洩スト共ニ本件ニ關シ我國ノ新聞紙上ニ挑發的記事乃至

ノ所感ヲ開陳シ右修正案ノ通過阻止方ニ付御配慮ヲ請フ可シトノ訓令ニ接シタル旨ヲ述ヘタル處長官ハ最近國內ニ彌漫セル國民主義ハ憲法議會ニモ横溢シ議員中内國勞働者保護ノ爲ニ外國移民制限ヲ主張シ若ハ之ニ共鳴スル者鮮カラス問題ノ修正案ハ裏面ノ魂膽ハ兎ニ角表面各國移民ヲ一律ニ制限スル建前トナリ居ル爲自然共鳴者モ多カリシモノノ如ク政府トシテハ正面ヨリ之ニ反対シ兼ヌル立場ニアルモ貴國政府ノ憂慮セラルル點ハ伯刺(刺カ)西爾政府モ全然同感ナルヲ以テ兩國ノ親善關係ニ累ヲ及ホスノ惧アル條項カ憲法中ニ挿入セラルルコト無キ様既ニ適當ノ措置ヲ講シ且努力ヲ續ケツツアルヲ以テ右ノ事情實使ニ於テ篤ト御諒知相成ルト共ニ貴國政府ニ傳達アリタント答へ續イテ本使ハ親日議員等中ニハ若シ閣下ニ於テニ、三ノ議會要人ニ對シ右修正案阻止方ニ付直接内意ヲ傳ヘラルルヲ得ハ幸甚ナリト爲念申出テタル處之ニ對シ長官ハ此等要人等ニハ既ニ充分内意ヲ含マセアルヲ以テ今改メテ其ノ必要無カラントノ口吻ヲ洩スト共ニ本件ニ關シ我國ノ新聞紙上ニ挑發的記事乃至

ハ差支無カルヘキノミナラス今日ニ於ケル青年ノ志操ニ照ラシ何等カノ方途ニ依リ進出ノ機會ヲ與フルコト肝要トモ思考セラル處其ノ具体的斡旋案

(欄外記入)

506 昭和9年5月12日

在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 領事會議での検討結果について

リオ・デ・ジャネイロ 5月12日前発  
本 5月13日後着

第一二七號

領事會議七日開會十日終了議決要點左ノ如シ

#### 一、排日當面對策

ニ出ツルノ外無キモ必要ナル各場合ニ於テ充分ナル措置ヲ

執リ得ル丈ケノ用意ヲ爲シ置クコト肝要ナリ此ノ意味ニ於

(欄外記入)テ先ツ取急キ本邦移民ニ關心ヲ有スル當國議員、政治家有力者團体及新聞紙等ニ付詳細ナル名薄ヲ作成スルコト

#### 二、對伯移住根本方針

移住國內法ノ觀念ト近頃各國ノ取扱振ニ鑑ミ本邦移民ノ永

續ヲ計ルカ爲ニハ本邦トシテ自ラ保護指導ノ完全ヲ期スルト共ニ移民誘入國タル伯刺西爾カ難無ク受入ルルカ如キ様式ニ於テ之ヲ行フ様努ムルコト然ルヘシ即チ

(一)本邦人ノ移植及發展ヲ聖州以外ニ及ホスニ努メ兼テ以テ全伯刺西爾ノ要望ニ應スルコト

(二)教育(ハ)伯主日從主義ノ徹底ニ努ムルコト

#### 三、移民ノ嚴選

時節柄特ニ之カ徹底ヲ希望ス尙毎年入國數ニ付唯認可數字ノ大ヲ欲シ之ヲ公表宣傳ニ利用スルハ以テ問題ヲ惹起スルノ惧アリ右數字ニハ融通性モアリ寧ロ内輪ニ見積リテ申請スルコト時節柄適當ナルヘク旁將來ニ付テハ決定前當業者ヲシテ大使館及政府ト協議セシムルコト事宜ニ適スルモノト認メラル

#### 四、現住地以外ノ發展

前顧第一項ノ趣旨ニ依リ又積極的發展ノ爲ニモ各州入植ヲ目的トシテ第一次ニ最モ有望視セラレ居ル「パラナ」州及「マラニオン」ノ二州ヲ取上ケ至急之カ調査ヲ遂クルコト

五、在伯公館

年々在留民激増ノ事實アルニ拘ラス各館人員數及經費ニ增

### 大差による一分制限法案の可決について

リオ・デ・ジャネイロ 5月24日後発  
本 5月25日後着

第一三八號(大至急)

往電第一三七號ニ關シ

「コート」案ノ通過ヲ阻止スル爲ニ凡ユル方面ヨリ最善ノ

努力ヲ盡シタルモ政治的關係ヨリ農務大臣「タボラ」(同人兄「フェルナンデス、タボラ」ハ最近「アルベルト、トレレス」協會長ニ選舉サル)公然之力支持ヲ提倡シ大州議員團モ最後ニ之ト協調スルノ已ムナキニ至リ政府ノ議會ニ對スル勢力ハ全ク衰ヘ「ヴァルガス」長官ハ正式大統領トシテ選舉セラレントスル直前ナルヲ以テ議會ニ對シテ干渉カマシキ工作ヲ爲スコトヲ殆ト絕對ニ遠慮シタル模様ニシテ旁二十四日午後ノ本會議ニ於テハ「コート」案ハ各國移民制限率二分ノ儘ニテ表決ノ爲優先的ニ上程セラレタリ其ノ際同案賛成者ヨリ「コート」、「ネイバ」、「モンテーロ、デ、バロス」、「シャビエル、デ、オリベーラ」、「バスコ、デ、トレド」、「フェルナンド、デ、アブレウ」ノ演説アリタルニ對シ我方ノ味方トシテ「ニアダトマイア」、「モラエス、

管下各領事ニ轉電セリ

(欄外記入)  
來報者ヲ充分活用スルコト

507 昭和9年5月24日

在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

アンドラーデ」、「アルコン」、「シエルモン」、「アドルフオコンデル」、「ロディ」六代議士何レモ熱辯ヲ振ヒテ同案ニ反対シタルモ何分ニモ同案ハ内國労働者保護ノ爲ニ各國移民ヲ一律ニ制限スル建前ト變形シ居レル爲排日家以外ニ之ニ賛成シタルモノ多ク愈投票ノ結果ハ遺憾乍ラ四十一對百四十六票ノ大多數ヲ以テ可決通過セリ右不取敢管下各領事へ轉電セリ

508 昭和9年5月26日 広田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

排日的な条項の可決に対しブラジル政府に厳重抗議方訓令

本省 5月26日後6時30分発  
第七七號

貴電第一三八號ニ關シ

「コウト」案ハ當初ノ亞細亞移民排斥案ノ換骨脫胎<sup>ハシメ</sup>タルコト明瞭ナルニ御來示ノ如ク大多數ヲ以テ可決セラレタルコトハ當方ノ甚タ意外トスル所ナルノミナラス貴地政情ハ然ルコト乍ラ「ヴァルガス」長官等特別ノ盡力ノ跡ヲ觀取シ

難キハ貴方屢次ノ電報ノ次第ト照合シ遺憾至極ナリ我方トシテハ伯國ノ好マサルニ移民ヲ送出シ居ル儀ニハ非ス我移民ハ伯國側ノ切實ナル需要ニ最モ適應スル理由ノ下ニ目下一般制限中ニ拘ハラス入國ヲ認メラレ來リタル處今回突然憲法規定ヲ以テ而モ事實上本邦移民ヲ目的トル制限條項ヲ成立セシムルコトハ實際上我國ニ對スル多大ノ差別待遇タルノミナラス徒ラニ我名譽ヲ毀損スルモノト謂フヘク折角兩國間ニ存在セシ歴史的親善關係ニ汚點ヲ貽スモノニシテ此ノ如キ事態ニ立到ルモノトスレハ當初ヨリ我名譽ヲ損セサル手段例之協定等ノ問題ヲ切り出スコトモ得ヘカリシナラント思ハル、處今日トナリテハ右モ容易ナラサルヘク兎モ角我方トシテハ此ノ際不取敢嚴重ナル抗議ヲ申入レ以テ伯國政府ノ反省ヲ促シ本條項撤廢若クハ不適用ヲ目的トル何等カノ措置ヲ講セシムル様要求シ度所存ナル處今猶本條項ノ確定ヲ阻止スルカ又ハ施行乃至存續ヲ困難ナラシメ若クハ農業移民等ニ對スル除外例設置ヲ工夫セシムルノ餘地アル儀ナリヤ本件善後措置ニ關スル貴見至急承知シ度シ

「サムパウロ」ニ轉電アリタシ

509 昭和9年5月26日 在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

二分制限法可決につき「ブラジル国内情勢不安  
定のため賀陽宮両殿下の同國御訪問は延期さ  
れた旨稟申

付記 五月三十日付高裁案

「賀陽宮同妃両殿下南米御訪問延期ノ件」

リオ・デ・ジャネイロ 5月26日後発

本省 5月27日前着

第一四三號

往電第九三號ニ關シ

今般遺憾乍ラ移民制限條項當國憲法議會ヲ通過シタルノミナラス政情頗ル不安ニシテ現政府長官ハ只管議會ニ於ケル憲法制定ノ終了及大統領ノ選舉ヲ待チ居ル有様ニ有之御豫定迄ニ安定ヲ見ルヘキ見込ヲ立ツル事困難ナリ又過般聖州在留民有志ヨリ申出有リタル所ニ關シ其ノ後更ニ詳細聽取致シタル處右ハ殿下御渡來ノ際是非共日本官民トシテ出來得ル限りノ熱誠ヲ示ス事トナルヘク其ノ結果ハ時節柄批判ノ種ニ利用セラレ勝ニテ斯クテハ殿下ニ於カセラレテモ御

不快ノ事有之ヘク兼テハ排日問題處理ノ方面ニ於テモ面白カラサルヘシトノ憂慮ニ出テタルモノナル趣ニテ今回ノ如ク事態ノ惡化ヲ見タル以上自然在留民心理激昂ヲ豫想セラレ彼是篤ト考察ノ結果當國ヘノ御渡來眞ニ遺憾ノ儀乍ラ御延期願上クル事ト致度シ

尙伯刺<sup>ハシメ</sup>爾政府ヨリ御招待ノ件ニ付去ル二月初旬本使北伯旅行中野田書記官カ當國外務大臣ト會談ニ當リ大臣ハ駐日大使ヨリ當國政府ノ名ニ於テ御招待申上ケ度旨照會ニ接シタルヲ以テ之ニ同意シタル趣ヲ語レル由ナルモ其ノ後當國政府ヨリ本使ニ對シ公式ニモ非公式ニモ何等申出若ハ打合等ノ事無ク又新聞等ニモ今日迄ノ處別段ノ記事ヲ見サル次第ニ有之旁假令御中止ト相成ルモ甚タシク當國官民ノ失望ヲ招ク様ノ結果トナルノ憂先以テ少キカト存セラルルニ付右ノ點ヲモ考慮ニ加ヘラレ度シ

佛、亞、「ホノルル」、秘露ヘ轉電セリ

(付記)

高裁案

賀陽宮同妃両殿下南米御訪問延期ノ件

903

(欄外記入一) 賀陽宮同妃両殿下ニハ最初南米諸國中伯、ウルグアイ、ア  
ルゼンティンノ三ヶ国ノミヲ御訪問アラセラルル御予定ナ  
リ右両國ヲ御訪問アラセラレサルハ國交上誠ニ遺憾ニ存ス  
ルニ付是非共御序ヲ以テ右両國ヲモ御訪問遊ハサル様尽  
力方宮内省及当省係官へ申出アリタリ。

素ヨリ右両臨時代理公使ヨリ申出ノ次第ハ當省トシテモ考  
量セサリシニハ非サルモ右ハ御旅程、御経費等ノ關係上急  
ニ御決定被遊難キ事情アリ宮内省側ト懇談ノ結果漸ク三月  
初旬両殿下御出發間際ニ至リ右両國ヲモ御訪問ノコトニ御  
決定有之タルニ付人事課長ヨリ御旅程ノ概略ト共ニ右御決  
定ノ次第在京南米各國大公使ニ非公式ニ通知シ置ケリ。

然ルニ四月二十一日在伯、林大使ヨリ電報ヲ以テ同國ニ於  
ケル排日問題並政情ノ推移ニ鑑ミ同國御訪問御延期ヲ願出  
來リタル處両殿下ノ南米御訪問迄ニハ尚四ヶ月ヲ余スノミ  
ナラス政府トシテハ南米諸國ノ御訪問ヲ御勧誘申上ケテヨ  
リ僅カニ二ヶ月ヲ出スシテ御延期ヲ願出スルハ余リニ輕卒(參)  
ナルノミナラス両殿下ニ於カセラレテモ南米御訪問ヲ御熱  
心ニ御希望遊ハサレ居リ又南米諸國ニ對スル關係ニ於テハ

(欄外記入二) 右御延期ノ理由及其ノ発表ノ時期等ハ慎重考量ヲ要スル次  
第ナルニ付暫ク伯國ノ政情ヲ見タル後何分ノ決定ヲ為スコ  
トトセルモ両殿下ニハ歐洲大陸御旅行ノ御都合上可相成至  
急本件ノ決定ヲ御希望遊ハサレ居ル由ナリシニ付五月十一  
日ニ至リ再度在伯、林大使ノ意見ヲ微(參)スルト共ニ在南米各  
公使ニモ其ノ意見ヲ求メタル處林大使ハ伯國現トノ諸般ノ  
情勢ニ鑑ミ両殿下同國御訪問ノ儀ハ矢張リ御延期ヲ願度又  
伯國政府側ノ両殿下ニ對スル歡迎ノ意ハ在京同國大使ノ傳  
フル程熱心ナルモノニアラサルニ付御訪問御延期トナルモ  
同國官民ノ甚シキ失望ヲ招ク虞レ先以テ少キカト思考スル  
旨回電アリ又其ノ他關係公使ヨリモ右林大使來電第二段ノ  
点ニ関シテハ大体ニ於テ同様ノ意見ヲ述ヘ來レリ。  
他方在亞山崎公使來電ニ依レハ「アンデス」鐵道不通ノ為  
降雪期ニ入りテハ自動車聯絡杜絕シ両殿下同地御通過ノ頃  
ハ飛行機便ニ依ラル外ナカルヘキ趣ナレハ若シ萬一ノコ  
トアリテハ誠ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナルニモ顧ミ此ノ際誠  
ニ乍遺憾両殿下ノ南米御訪問ノ儀ハ御見合ヲ願フコトシ  
其ノ理由ハ是亦誠ニ恐懼ニ堪ヘサル次第ナルモ宮家ノ御都  
合例ヘハ妃殿下夏期長途御旅行ニテ御疲勞被遊熱帶地ヲ經

(欄外記入二) 「コート」案ノ通過阻止方ニ就テハ同案ニ日本又ハ亞細亞  
移民排斥ノ文字ハナクトモ事實ニ於テ我移民排斥ヲ目的ト  
スルモノナルコトハ排日派議員「シャビエル、ダ、オリベ  
イラ」及「ジユナル、ド、コメルシオ」連日ノ論議ニ依リ  
明白ニシテ本使カ伯國政府ト折衝スルニ當リテモ強ク其ノ  
點ヲ難詰シ之カ通過ヲ見ルカ如キコトアラハ親善ナル兩國  
ノ國交ニ由々敷キ影響ヲ與フルニ至ルヘキヲ警告シ之カ阻  
止方ニ關スル善處ヲ望ミ過去數ヶ月ニ亘リ外務大臣トハ少  
クトモ毎週一、二回以上會見シ「バルガス」長官ニモ二回  
謁見シテ其ノ善處ヲ望ミ他ノ各大臣ニモ隨時ニ會見シテ事  
態ヲ説明シ同シク善處ヲ希望シタルカ之ニ對シ農務大臣  
「タボラ」カ最近ニ至リ態度ヲ變更シタル外「バルガス」

510 昭和9年5月26日 在ブラジル林大使より  
廣田外務大臣宛(電報)  
二分制限法の通過の原因について  
リオ・デ・ジャネイロ 5月26日後発  
本 省 5月27日後着

## 第一四五號

テ氣候相反スル南米ノ御旅行ハ御困難ナルカ為醫師ノ勧ニ  
依リ今回ハ御訪問御見合遊ハサルルノ已ム無キニ至リタル  
コトトシ又両殿下ニ於カセラレテハ歐洲大陸御巡遊ノ後適  
当ノ避暑地ニ於テ暫時御休養被遊直接米國經由御帰朝遊ハ  
サル様御願申上ケ御發表ノ時期ニ付テハ成ルヘク遲ク御  
公表相成ルコト、シ來ル七月下旬頃又ハ其後ニ於テ両殿下  
避暑地ニ向ハセラル頃ヲ見計ラヒ右ノ次第ヲ人事課長ヨ  
リ在京南米諸國大公使ニ通知スルコト致シ度シ。  
尚本件ニ關シテハ人事課長ニ於テ右ノ趣旨ニテ予メ宮内側  
ト協議ノ上必要ナル手續ヲ為スコト致シ度シ。  
右仰御高裁。

昭和九年五月三十日

(欄外記入一)

六月六日宮内省岩橋事務官ニ南米各公館來電一括手交シ本案ノ

趣旨ニヨリ話スミ

(欄外記入二)

別ニ理由ヲ示サス御見合相成ル様宮内省側ニ申入ル、コト

~~~~~

長官及各大臣トモ何レモ我方ニ好意アル態度ヲ示シ出來得ル丈ケノ善處ヲ約セルモ現政府ハ元來臨時のモノニシテ新ニ憲法ヲ制定スルニ當リテハ理論上議會ニ干涉シ得サル建前ニアルト同時ニ他方臨時政府ハ成立以來既ニ三年半餘ヲ経過シ人心漸次倦ムニ至リ閣僚間ノ離異更迭モ少カラス政府ノ實力逐日薄マリ行キ憲法議會開會ノ當初ニ於テハ政府ハ事實相當ノ指導ヲ爲ス方針及實力ヲ有シタル模様ナリシモ後ニハ其ノ制定セラルヘキ内容條項ニ對シテ殆ト干涉スルノ意思ヲ捨テ只管「バルガス」長官ノ大統領選舉ニノミ腐心スルニ至レリ之カ爲「コート」案通過阻止ニ初メ相當ノ效果ヲ與ヘツツアリト見エタル政府ノ態度ハ最近ニ至リ漸ク消極的トナリ之ニ反シ排日議員等ハ一般新聞輿論力大体ニ於テ我方ニ有利ナル爲特ニ警戒ヲ加ヘツツ各議員ニ對シ潛行的運動ヲ試ミ院外ニ於テハ「アルベルト、トーレス」協會幹部ヲ總動員シ又「コート」博士ノ親友ニシテ曾テ外務大臣タリシ「フェリス、パシェコ」カ滿洲事變以來極端ニ排日傾向ヲ帶ヒ來居レルヲ利用シ其ノ主宰スル有力新聞「コメルシオ」ヲ機關トシ連日我移民ニ不利ナル記事ヲ掲ケ「コート」案通過ヲ懲懲セシメタリ

議會ニ於ケル空氣ハ有力議員中ニハ「コート」案ノ不條理ナルヲ信スル者多キモ排日派ハ「ナシヨナリズム」ヲ「モットー」トシ自國勞働者保護ノ必要ヲ理由トシ各州代表議員ヲ結束シテ該案通過ヲ計リ其ノ間他ノ何レノ外國ニ對シテモ差別スルモノニ非サル點ヲ強調シ二十四日ノ本會議ニ於テモ多數ノ「コート」案贊成演說者アリシニ拘ラス我國名又ハ日本移民ナル語ヲ使ヒタルモノ一名モ無之カリシ點ヨリ見ルモ彼等カ如何ニ御互ニ相戒メ表面排日案ニ非スト云フヲ得ヘキモ本案ノ成立及排日派ノ日常ノ言論並ニ伯刺西爾移民最近ノ實狀ヨリ見レハ我移民制限ヲ目的トスルモノナルコト疑ヲ單ニ表面ノ字義ヨリスレハ排日案ニ非スト云フヲ得ヘキモコトヲ示スニ注意セルヤヲ看取スルニ足ル「コート」案ハ單ニ表面ノ字義ヨリスレハ排日案ニ非スト云フヲ得ヘキモ本案ノ成立及排日派ノ日常ノ言論並ニ伯刺西爾移民最近ノ實狀ヨリ見レハ我移民制限ヲ目的トスルモノナルコト疑ヲ容ルヘカラス而モ外務大臣等ハ個人トシテハ移民無クシテ如何ニ伯國產業ヲ發達セシメ得ルカヲ知ラスト信スト稱シ初ハ相當ノ期待ヲ示セル模様ナリシモ漸次微力ナルヲ告白スルニ至リ該案ハ表面排日ノ意義ヲ含ミ居ラサル爲臨時政府ノ虛弱ナル地位ヨリ充分當方ノ申出ニ應スルノ難キコトヲ遺憾トシ遂ニ今回ノ結果ヲ齎セリ

之ヲ要スルニ憲法制定議會開會後日ヲ經ルニ從ヒ臨時政府之ヲ要スルニ憲法制定議會開會後日ヲ經ルニ從ヒ臨時政府

ノ實力衰へ政府ノ形ヲ備フルモ事實ハ或意味ニ於ケル無政府狀態ニシテ「バルガス」長官ハ只管大統領ニ選舉セラルルヲ俟テ建直スコトノミニ心掛け其ノ爲ニハ國際關係ヲモ將又眞ノ國利ヲモ犠牲ニ供シテ憚ラサリシモノト見ルヲ得ヘシ

管下各領事へ轉電セリ

511 昭和9年5月28日 在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

## 二分制限法通過に對し外務大臣へ抗議について

リオ・デ・ジャネイロ 5月28日後発  
本省 5月29日後着

第一四八號

二十八日(定例會見)外務大臣ニ會見シ憲法議會ニ於ケル「コート」案通過ニ關シ過去數ヶ月間十數回ニ亘リ同案力事實ニ於テ日本移民ヲ排斥スルモノナルニ付日伯兩國ノ親善ナル交誼ニ顧ミ之カ通過阻止方ヲ申入レ「バルガス」長官ニ於テモ外務大臣ニ於テモ好意ヲ以テ善處方ヲ約言セラレタルニ拘ラス壓倒的多數ヲ以テ同案ノ通過ヲ見タルハ誠

ニ意外トスル處ニシテ遺憾至極ナリ殊ニ政府閣僚タル農務大臣カ先頭ニ立チテ同案通過ヲ懲懲運動シ院内總理カ同案通過ニ投票セルカ如キ事實ハ政府カ同案ヲ支持シタルヤノ觀アリ恰モ臨時政府ハ我方ヲ裏切りタルヤノ外觀ヲ呈スト述ヘタル處外務大臣ハ同案ノ通過ハ誠ニ臨時政府ノ遺憾トスル處ナルカ政府ハ素ヨリ兩國交誼ノ親善ニ全力ヲ盡シ始同案ノ通過セサルコトヲ希望シ出來得ル丈ノ工作ヲ盡シタルモ本大臣カ屢繰返セル如ク主權ハ憲法議會ニアリ臨時政府ハ同議會ニ對シ法理的ニハ何事ヲモ爲ス權限無ク唯事實ニ於テ暗々裡ニ議員間ノ空氣ヲ動カサントスルニ過キス遂ニ今回ノ如キ結果ヲ招致セルモノナルカ同案通過ヲ支持セリトノ疑ハ全然冤罪ナリ農務大臣「タボラ」カ議會ニ於テ策動セルハ大臣トシテノ資格ニ非ス革命派ノ首領トシテ行動セルモノニシテ政府ノ意嚮ヲ表明セス現在伯刺西爾ノ政府ハ事實ニ於テ「バルガス」長官一人ノミト云フヘク從テ政府ノ意見ナルモノハ長官自身又ハ本大臣ヲ通シテノミ表示セラルモノト信セラレ度シ又院内總理カ「バイア」州案ニ投票セルヤハ明カニセサルモ事實トセハ「バイア」州

議員團ト一致行動ヲ取リタルモノト思ハルルカ同人ノ意中

ニハ毛頭日本ニ對シ反感ヲ有セサル筈ナリ要スルニ臨時政

府ハ餘命幾何モ無ク又充分ノ力ヲ有セス結果ニ於テ不成績ナリシモ飽迄日本ニ對シ好意ヲ有シ行動セルノ事實ハ諒承アリタシト説明セリ

右ニ對シ本使ハ如何ニ釋明セラルルトモ結果ハ臨時政府ノ好意ト反対ニ現ハレ居リ本使ハ從來帝國政府ニ對シ臨時政府ニ信賴スヘシト終始進言シ來レル手前我政府ニ對シ如何ニ報告スヘキヤノ辭ニ苦シミ居リ若シ臨時政府ニ於テ眞ニ我方ニ對シ好意ヲ有セラルルトセハ日伯親善ノ障害タル「コート」案ノ通過セルニ對シ(脱?)何等適當ナル處置ヲ取ルヘキヤニ付テハ臨時政府ノ餘命幾何モ無キ今日ナレハ茲ニ何等ノ意思表示ヲ爲シ得ヘカラス唯貴意ノアル處ハ充分長官ニ傳達スヘシト語レリ

512 昭和9年6月8日 広田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

### 二分制限法通過に関するブラジル政府宛覚書 について

ニ過クヘシト述ヘタルニ付本大臣ハ林大使寵免ニ關スル巷間取沙汰ノ如キハ元ヨリ事實無根ナルモ全大使ハ自己ノ最善ノ努力ニモ不拘全法ノ通過ヲ見ルニ至リ特ニ日本移民ニ苛酷ナル全條項ノ成立セル結果ニ對シ痛烈ナル責任ヲ感シ自ラ進ンテ歸朝ノ許可ヲ求メ來レル次第ナリト説明セルニ對シ大使ハ余一個トシテハ三年余滯日ノ經驗上ヨリ貴國人ノ國民性ヲ理解スルヲ以テ林大使ノ苦衷ハ推察シ得ルモ貴國人ハ責任ニ對シ敏感ニ過クルノ嫌アリ召喚ノ如キ行動ハ外國人トシテハ諒解シ難カルヘシト述ヘタル後本問題ニ關スル本邦輿論ノ態度ニ言及シ六日ノ東日カ林大使ハ伯國政府ニ裏切ラレタリト云ヒ本使モ貴大臣ニ對シ伯國政府ハ本件ヲ圓滿解決スヘシト誓言セルヤニ報シ居ル處本使ニ於テハ未タ食言セルコト無ク頗ル迷惑シ居レリト述ヘタルヲ以テ本大臣ハ輿論指導ニ就テハ貴大使屢次ノ御申入モアリ林大使モ全様ノ意見ヲ上申シ居ルヲ以テ精々新聞ハ抑ヘタル上議會ニ於ケル質問ニ對シテモ須ク伯國政府ニ信賴スヘシト答ヘテ輿論ノ鎮靜ヲ計リタル次第ナルカ元來我政府ハ伯國カ欣然我移民ニ對シ門戸ヲ開放シ之ヲ歡迎シタルニ依リ渡伯移民ニ就テハ特ニ嚴選ニ努メ是等移民ハ伯國文化ノ向

本省 6月8日後10時40分発

第八八號(極祕)

六日伯國大使來省本大臣ニ面會ヲ求メ本國政府ヨリノ訓令ニシテ伯國ノ自由ニ制定シ得ル所ナルヲ以テ伯國駐在ノ外國使臣トシテハ「グレーブ、オフエンス」ヲ與フルコト無クシテハ何等積極的ニ右ニ關與シ得サルヘキニ鑑ミ林大使ノ合法的ニ執リ得ル措置ニモ自ラ限界アルヲ以テ本條項通過ノ故ヲ以テ全大使ノ責任ヲ問ハル、ハ當ラサルノ觀アルヘキノミナラス本件ハ日伯國交開始以來最初ノ外交事件(大使ハ意見ノ相違トモ「フリクション」トモ言ヒタリ)トモ言フヘキモノナレハ其ノ影響ハ出來得ル限り擴大セサル様致シ度ク殊ニ今回ノ條項ハ日本一國ヲ目的トセルモノニハ非スシテ各國一樣ニ適用アリ偶々日本移民ノ渡伯カ比較的近年ニ至リ開始セラレタルカ爲ニ日本ニ重大ナル影響ヲ與フルニ過キス伊、西、獨等ノ諸國モ伯國ニ抗議スルコトアルヘキ處日本ノミカ大使更迭等ヲ行フハ如何ニモ大袈裟

上ニ貢獻シ日伯國交ハ之カ爲敦厚ヲ加ヘタル次第ナル處今ヤ突如門戸ヲ閉鎖セラレントスルハ日本國民ニトリ一大「ショック」ニシテ痛ク吾人ノ名譽心ヲ傷ツクルモノナレハ日伯親善國交ニ一大汚點ヲ印シタルモノナリ現ニ今日ノ事態ト爲リタルヲ以テ輿論ハ余ノ政策ハ樂觀ニ過キタリト攻撃シ何故事前ニ新聞議會等ヲ通シ制限法成立セハ日本ノ朝野ハ大ニ憤激スヘキ旨ヲ明確ニ貴政府ニ徹底セシメサリシヤト憤慨シ居リ日々ノ記事ノ如キモ其ノ一例タル處本問題ニ對スル伯國政府部内ノ意見ハ統一ヲ缺キタルヤノ觀アリ政府ノ見解カ憲法議會ノ意見ト對立シ後者ノ行動カ今回ノ如キ意外ノ結果ヲ招キタル爲余ハ國民ヲ納得セシメ難ク又其後接受セル報告ニ據レハ今次ノ措置ハ伯國知識階級又ハ一般ノ輿論ヲ反映セルモノト見ラレサルヤニ觀測セラレ所ナリ實ヲ申セハ過日參內シ本件經緯ニ關シ陞トニ奏上セル際余ハ御説明ノ辭ニ頗ル窮セル次第ナルカ陞トニ於カセラレテハ畏クモ伯國力は迄我移民ヲ歡迎セル好意ヲ嘉ミセラレ居リシコト、テ一日モ速ニ本件ニ對スル善後措置ヲ望ム旨御意ヲ抒承シ余ハ襟<sup>（襟襟）</sup>辰ヲ惱マシ奉リタルニ對シ恐懼ニ

爾來日伯國交改善ニ對シ日夜苦心シ居リ我對伯政策ヲ再検討シ移民政策ヲ根本ヨリ建直スノ要アリト思考シ居ル旨述ヘタル處大使ハ痛ク感激シ聖旨ニ關スル内話ヲ謝シタル上自分モ今回ノ移民條項ヲ遺憾トスル點ニ於テ人後ニ落チサルモノナルモ憲法ハ未タ公布セラレ居ラス全條項支持者中ニハ態度ヲ變更スルモノアルヤモ知レサルモノト思考セラル、ニ付本使ニ於テモ全條項ノ緩和方ニ付出來得ル限りノ努力ヲ拂フヘシト答ヘタリサンパウロヘ轉電アリタシ

513 昭和9年6月20日

廣田外務大臣より  
在ブラジル林大使宛(電報)

我が方が今後とるべき方針に関する見解について

本省 6月20日後9時0分発

第九三號

貴電第一六五號ニ關シ

移民制限條項ハ最早修正ノ望殆ト無ク其ノ儘憲法ノ確定條章トシテ近ク公布ヲ見ルヘキ趣ナル處申ス迄モナク右條項

面ノ利害ニ及ホス所極テ重大ナルモノアリ輿論モ一般ニ甚大ナル失望ト不満ヲ感シ居ル事實ニ鑑ミ政府ハ此ノ際右措置ヲ執ルノ必要ヲ感スル次第ナリ就テハ

一、新憲法公布ノ上ハ貴官ハ直ニ伯國政府當局ニ對シ別電甲

第九四號(省略)ノ覺書ヲ交付スルト全時ニ口頭ヲ以テ別電乙第

九五號(省略)ノ趣旨ヲ敷衍シテ帝國政府ノ見解ヲ充分徹底セラ

レ度ク

二、今後移民制限條項ノ適用ニ當リテハ海興ニ對シ既ニ許可

濟ノ本年入國數、南拓及上塚關係等ノ契約上ノ既得權益

ヲ充分確保スル爲メ必要ナル措置方豫メ攻究シ置カレタク

三、其他一般本邦移民ニ對シ何等カ適當ナル名義ニ依リ出

來得ル限り入國數制限ヲ緩和セシムル目的ヲ以テ今後伯

國政府、議會及民間方面ヲ適宜誘導スルニ當リ責任國ノ

實情ニ照ラシ最モ適切ト認メラル、具体案ヲ攻究上申相

成度シ此點ニ關シ日伯間ノ貿易關係ノ增進乃至伯國企業ノ援助等ニ付此ノ際兩國間ニ商議ヲ試ミ我方ヨリ協力方申出ニ依リ何等カ局面展開ヲ計リ得ヘキヤニ付テモ御見

込回電アリタシ

ハ表面各國平等ヲ裝フト雖モ比率適用ノ基準數ヲ算出スル

方法公正ヲ缺キ實質上日本ニ對シ差別的ナル點ニ於テ甚タ不當ナルモノト謂フヘク帝國政府トシテハ日伯國交ノ上ヨリハ勿論兩國通商條約ノ精神ニ鑑ミ頗ル之ヲ遺憾トナシ我國論亦深甚ナル不滿ヲ表シタルモ右條項ノ決議ニ先チ伯國政府側ニ於テハ貴官ニ對シ屢々政府當局ニ信賴セラレントヲ希望シ居タル事情ニ顧ミ當方ニ於テハ新聞其ノ他輿論ノ指導上細心ノ注意ヲ加ヘ來レル次第ナルカ今ヤ不幸ニシテ本件條項愈々確定實施ヲ見ルコト、ナレル以上ハ帝國政府トシテハ此ノ際一面伯國政府ニ本件ニ對スル我方ノ見解ヲ充分ニ徹底セシムルト同時ニ他面ニ於テ今後此ノ不幸ナル制限條項ノ適用ニ當リ邦人ノ既得權益ノ確保ハ勿論其ノ他ノ點ニ於テモ出來得ル限り之ヲ緩和セシムル様最善ノ努力ヲ繼續スルノ必要ヲ認ムルモノナリ固ヨリ帝國政府ハ本問題ニ關シ伯國政府ト徒ラニ論争ヲ續ケントスルノ意ナク寧ロ日伯間ノ親善關係ヲ尊重シ兩國ノ經濟關係ヲ將來益々緊密ナラシメントスルノ誠意ヨリシテ率直ニ我方ノ見解ヲ開示シ何トカ當面打開ノ端ヲ啓カントスルノ趣旨ニ外ナラサルカ又同時ニ今回ノ移民制限條項ノ實施ニ依リ我國各方別電ト共ニ「サンパウロ」ヘ轉電アリタシ

514 昭和9年6月28日

在ブラジル林大使より

ク

覺書の訂正について

リオ・デ・ジャネイロ 6月28日後発

本 省 6月29日前着

第一七三號

貴電第九三號ニ關シ(伯國憲法移民條項ニ關スル件)

伯國新憲法ノ移民制限條項ハ表面ハ兎ニ角實質ニ於テ初メ我移民ヲ制限スル目的ヲ以テ修正案提出セラレ可決採用セラルニ至リタルモノナルカ右ハ日伯兩國ノ傳統的親善關

係ヲ破ルモノト爲シ本使カ幾回ト無ク伯國政府ニ對シ之力  
通過方ニ關スル善處ヲ求メタルニ拘ラス遂ニ該條項ノ採擇  
ヲ見ルニ至リ誠ニ遺憾至極ナルヲ以テ新憲法發布ヲ俟テ我  
方ノ見解及希望ヲ率直ニ覺書トシテ伯國政府當局ニ交付ス  
ルコトハ御來訓ノ如ク誠ニ機宜ヲ得タル處置ト思考セラル  
ル處右覺書交付ノ目的ハ素ヨリ最近發生セル兩國間ノ暗雲  
ヲ將來一掃スルニアリテ之ニ依リ却テ事態ヲ惡化セシムル  
カ如キ惧無カラシムル様注意ヲ加フルノ必要アリ  
而シテ當國ニ於ケル輿論ノ趨勢ハ一部ノ異論者ハアルモ大  
體ニ於該移民條項カ國利ニ合セサルモノトスルニ傾キ漸  
次改正ノ機運ニ向フヘシト看做サレツツアルモ感受性強ク  
而モ經濟的大局ノ利害ニ敏感ナラサル伯國民ノコトナレハ  
我方カ之ヲ善導緩和スルニ當リテハ成ルヘク其ノ自負心ヲ  
刺戟スルカ如キ措置ヲ避ケ専ラ潛行的ニ目的貫徹ノ爲ノ地  
均シヲ爲スニ努メ事ヲ急キテ誤ルカ如キコト無キ様特ニ警  
戒スルヲ要ス從テ内山總領事發大臣宛電報第一四二號稟申  
ハ本使ニ於テモ頗ル機宜ニ適セルモノト思考シ居リ我覺書  
ヲ手交スルニ當リテモ其ノ内容ニ付テハ前記ノ點ニ充分ノ  
注意ヲ加へ爲ニ先方ノ辯駁ヲ誘發シ更ニ文書ノ往復ヲ繰返  
(轉電先脱?)

ス様ノコト無カラシメ專ラ伯國政府ヲシテ實質的ニ肯カシ  
ムル様ノモノト致度此ノ意味合ニ於テ今回出張ノ内山總領  
事ノ意見ヲモ徵シ當方ニ於テ攻究シタル結果  
一、差別的待遇及通商條約ニ關スル非難ノニ點ハ伯國側ニ於  
テモ言ハント欲スレハ言分アルヘキヲ以テ口頭説明ニ讓ル  
方然ルヘシ  
二<sup>(2)</sup>抗議ヲ突付ケタル如キ印象ヲ與フルコトヲ避ケ度シ此ノ  
點ハ貴案ニモ右様ノ考慮充分看取セラルモ末尾其ノ他ノ  
文言一層穩當ノモノト致度シ  
三、從來本邦人渡航ノ實狀及本邦ニ於ケル取扱注意方ヲ詳說  
スルハ實害ナキノミナラス却テ伯國政府ノ了解ヲ深ム利  
益アリ  
四、今回覺書提出ニ當リテハ累次報告ノ實情ヨリ見テ伯國政  
府ヲシテ已ムナク更ニ辯駁セシムル様ノ地位ニ追込ムコト  
ナク而モ先方ヲシテ充分事態ノ重要ヲ感受セシムルト共  
ニ必シモ回答スルヲ要セサル様仕向クルコトト致度シ  
右ノ趣旨ニ依リ潛越<sup>(音ズ)</sup>ナカラ貴電覺書ニ修正ヲ加フルコトト  
致度卑見トシテハ内山總領事稟申覺書案大体妥當ト思考ス  
ルニ付之ニ再訂正ヲ加ヘ別電ノ通リ御採用方ヲ希望ス

イ、中段「一九三〇年、、」ノ所「毎年當該移民會社カ  
伯國政府ヨリ特許セラレタル入國許可數ノ範圍内ニテ」  
ヲ削除  
ロ、終ヨリ四分ノ一ノ所「若シ最近ニ於ケル日本移民增加  
、、、協和的手段ニ訴フルコトナク遂ニ」ヲ削除  
尙憲法成立ハ七月五日以後トナルヘキ模様ナル處右決定ノ  
結果ハ至急御回訓ヲ得度シ  
(轉電先脱?)

在ブラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

#### 外務次官に対し覺書手交について

付記一 右覺書

二 右覺書和訳文

515 昭和9年7月23日

リオ・デ・ジャネイロ 7月23日後発

本 省 7月24日後着

貴電第一一號佛文覺書ハ廿一日朝接受セルカ新大統領就  
任ト共ニ各大臣皆辭表ヲ提出シ外務大臣ハ既ニ廿日以來出

勤セス今廿三日ノ定例會見モ外務次官代リテ之ニ當レリ依  
テ新大臣(未タ任命ナシ)ニハ更ニ後日口頭ヲ以テ申入ルル  
コトトシ不取敢甘三日外務次官ニ會見シ御訓令ニ依ル覺書  
ヲ交付シ貴電第九五號ノ趣旨ヲ更ニ仔細ニ述ヘタルニ次官  
ハ帝國政府ノ御趣旨ハ能ク了解シタルヲ以テ之ヲ上司ニ取  
次クヘキ旨ヲ述ヘタル後餘談ニ於テ次官ノ私見トシテハ素  
ヨリ移民制限ノ國家ニ不利ナルヲ信スルモノニシテ將來何  
等カノ便法ヲ考フルノ必要アリトスルモノナルカ現在丁抹  
ヨリ移民五百家族ノ希望アリ然シ新憲法條項ニ依レハ丁抹  
ノ割當ハ約三十家族ニ過キサルヘキヤニテ目下考慮中ナリ  
ト語リタルニ依リ本使ハ伯國政府ニハ廿餘年以前迄ノ入國  
移民ニ關スル正確ナル統計ナキヤニ聞キ及ヘルニ丁抹割當  
ヲ約三十家族ト算定セル基礎如何ト尋ネタル處次官ハ其ノ  
點曖昧ナルヲ以テ結局施行法ヲ制定スルニアラスンハ新憲  
法ノ移民條項ハ之ヲ實施シ得サルヤモ知レスト語レリ  
右次官ノ談話ハ素ヨリ私見ニシテ何等權威ナキモノナルモ  
新憲法ノ移民條項ヲ實施セントセハ差當リ前記ノ如キ困難  
ナル事情アリ從テ實際上ノ移民取扱ニハ新政府ノ方針及手

ニ對スル折衝ニ申眞重ナル注意ヲ加ヘル必取トニ勞本使ニ  
於テヤ先般來其ノ趣向ヲ以ト伯國恤此ニ接觸シ胆ル次第ハ  
國ニ於テハ體分公表ヤキナルキ由ヲ透クタルニ次回ノ伯國外  
務省ニ於テ(中)出ノ種外交文書ヘトテ發表ヤキナルト例上ベ  
ルヲ以ト御安心アリ度ク田口本側ニ於テノト公表ヤキナル  
國ニ即ち答々タリ右覺書ニ共ニ次回ノ私談ヤ公表ヤハナキ  
ル様御取扱マニ度ハ

## (文書)

(Memorandum<sup>14</sup>)  
Memorandum.

Le Gouvernement impérial, soucieux de développer les rapports traditionnels qui unissent le Japon et le Brésil, est convaincu que si l'on venait à surgir une situation quelconque qui risquerait d'avoir des répercussions sur lesdits rapports, il est du devoir de chacun des deux gouvernements de se le faire remarquer avec franchise et de s'aider mutuellement de la manière la plus complète pour réparer la situation ainsi créée.

S'inspirant de cette considération, le Gouvernement impérial croit devoir exposer en toute sincérité sa manière de voir concernant les conséquences fâcheuses sur l'immigration japonaise qu'entraineront les dispositions de la nouvelle loi constitutionnelle brésilienne qui vient d'être promulguée.

Il est vrai que les dispositions de ladite loi sur l'immigration, tout en déterminant la limite maximum des immigrants qui seront désormais admis au Brésil, n'instituent pas en apparence une discrimination basée sur la nationalité; on ne peut pas cependant que l'examen des chiffres des immigrants de diverses nationalités entrés dans le pays au cours de ces dernières années et des débats qui ont eu lieu au sein de l'Assemblée Constituante prête à la conclusion que lesdites dispositions ont été incorporées dans le but de réglementer principalement l'immigration japonaise. Il est de toute évidence que leur mise en vigueur aura pour résultat de rendre sensiblement l'immigration japonaise au Brésil.

Il est à faire remarquer à cet égard que ce sont avant tout les nécessités économiques du Brésil qui ont déterminé durant ces 25 dernières années l'immigration japonaise. Il est avéré que les immigrants japonais, toujours respectueux de la loi brésilienne, se sont efforcés d'être de bons et loyaux éléments du pays. D'ailleurs le plus grand nombre de ces immigrants, livrés à l'agriculture, ont su contribuer dans une très large mesure à la mise en valeur des ressources naturelles et, partant, à l'accroissement des richesses nationales du Brésil. Néanmoins depuis la mise en vigueur, par le Gouvernement brésilien, du décret du 13 décembre 1930 portant limitation à l'entrée des étrangers, les immigrants japonais ont fait toujours l'objet d'un choix rigoureux qui séffectuait parmi les éléments agricole afin de se conformer au but poursuivi par ledit décret. Il s'ensuivit que la demande pour les immigrants japonais n'eut cesse d'augmenter jusqu'à présent.

Le Gouvernement impérial n'a pas pu cependant ce courant immigratoire japonais, loin de constituer un obstacle quelconque à la question du placement des champs urbains nationaux et d'entraîner des conséquences contraires aux intérêts économiques du Brésil, n'a fait que favoriser les liens politiques et économiques des deux pays.

Le Gouvernement impérial n'a pas pu cependant s'empêcher de suivre avec inquiétude et étonnement les débats qui étaient engagés dans l'Assemblée Constituante et qui semblaient méconnaître la portée historique des immigrants japonais et le rôle qu'ils jouent actuellement dans l'économie nationale du pays, ainsi qu'il a été exposé ci-dessus. Il était convaincu que, vu la longue et bonne amitié des deux pays, les efforts cordiaux du Gouvernement brésilien auraient réussi à trouver une issue satisfaisante. Au vif regret du Gouvernement impérial, le développement des débats de l'Assemblée Constituante aboutit à un état de chose qui restreindrait excessivement l'entrée des immigrants japonais au Brésil.

Dans cette conjecture, le Gouvernement impérial espère sincèrement que le Gouvernement brésilien, attachant du prix au resserrement des rapports traditionnels des deux pays, voudra bien poursuivre ses efforts les plus amicaux et efficaces en vue de remédier le plus promptement possible à cette situation regrettable.

(付記11)

帝國政府ハ日伯兩國間ノ傳統的友好關係ノ增進ヲ顧念シ苟クモ右關係ニ影響ヲ及ホスカ如キ虞アル事態發生シタル場合ニハ互ニ淡泊ニ之ヲ指摘シ之カ匡正ノ爲充分協力スヘキモノナルコトヲ信スルカ故ニ今回公布セラレタル伯刺西爾新憲法ノ條章カ日本移民ニ對シテ招クトアルヘキ面白カラサル結果ニ就キ帝國政府ノ所見ヲ卒直ニ披瀝セント欲ス右憲法ノ移民條項ハ將來伯刺西爾ニ入國ヲ許容セラルヘキ移民數ノ限度ニ關シ表面特ニ國籍上ノ差別ヲ設クル所ナキモ最近ニ於ケル各國移民ノ伯刺西爾入國數ノ實蹟ニ照ラシ將又這般ノ憲法議會ニ於ケル論議ノ經緯ニ鑑ミルトキハ該規定ハ實質上主トシテ日本人ヲ目標トシテ制定セラレタル

モノト解スルモ不<sup>(ア)</sup>止得<sup>(ア)</sup>サルベキノミナラス其ノ適用ノ結果トシテ日本人ノ入國ヲ甚<sup>(ア)</sup>タシク制限スルコトトナルベキハ極メテ明白ナリ  
抑モ日本移民ハ過去一十五年間終始伯刺西爾ノ經濟的需要ニ應シ渡航セルモノニシテ此等移民ハ常ニ伯刺西爾ノ國法ヲ遵奉シ其善良ナル要素タラシコトニ努ムルト共ニ其ノ大多數ハ農業ニ從事シ伯刺西爾資源ノ開發ト其國富ノ増進トニ寄與スル所不尠殊ニ一九三〇年十二月十二日附外國人入國制限規程實施以後ニ於テハ日本移民ハ該規定ノ趣旨ニ則リ特ニ農業者中ヨリ努メテ嚴選送出セラレタル結果伯刺西爾ニ於ケルソノ需要益々增加セルモ夫レカ爲同國ノ都市失業者就職ニ累ヲ及ホシ其他同國ノ經濟的利益ニ反スルカ如キ事態ヲ招キタル事ナク却ツテ日伯間ノ國交及經濟的關係ヲシテ益々緊密ナラシムルニ資スル所アリタルハ伯刺西爾政府ニ於テモ夙ニ了知セラル所ナルヘシ

然ルニ這般ノ憲法議會ニ於テ前述ノ如キ日本移民ノ歴史的關係並ニ其ノ伯國經濟上ノ地位ヲ無視スルカ如キ論議行ハレタルハ帝國政府ノ誠ニ意外トセル所ニシテ日伯兩國多年ノ親善關係ニ鑑ミ伯刺西爾政府ニ於テ充分斡旋ノ勞ヲ取ラ

レ必スヤ良好ナル結果ニ到達スヘキコトハ帝國政府ノ信シテ疑ハサリシ所ナルニ圖ラスモ將來日本移民ノ入國ヲ極端ニ制限セントスルカ如キ結果ヲ見ルニ至リタルハ帝國政府ノ頗ル遺憾トスル所ナリ  
依テ帝國政府ハ伯刺西爾政府ニ於テ兩國間ノ傳統的友好關係ヲ深ク顧念セラレ右ノ如キ遺憾ナル事態ノ速ニ匡正セラルルニ至ル様此上トモ最善ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ衷心希望シテ止マサルモノナリ。

~~~~~

516 昭和9年9月11日 在<sup>(ア)</sup>ラジル林大使より  
広田外務大臣宛(電報)

ブラジルを離任するに当たつての所見について

リオ・デ・ジャネイロ 9月11日後発

本省 9月12日前着

第一四一號

去ル七月伯國新憲法發布セラレ「バルガス」大統領ノ下ニ新政府組織ヲ見タルカ爾來政府ノ新憲法條項特ニ移民條項實施ニ關スル意図如何ヲ注意シ居レル處新政府ハ流石ニ憲法ニ依リ大統領ノ組織セルモノナルヲ以テ臨時政府ト異リ

閣僚間ノ統制ヲ保チ居リ大統領ヲ始メ各大臣等モ共ニ新憲法條項中ニハ實施困難ナル條項鮮カラス是等ハ早晚改訂ヲ免レサルヘク夫迄ハ然ルヘク融通善處セントスル方針ニ一致シ居ル如シ從テ移民ニ關シテモ一方各州ヨリハ外來移民招致ノ希望ヲ進言シ來リ他方百二十一條ノ制限條項ヲ實施セント欲スルモ正確ナル基礎的數字ヲ缺ク爲之ヲ可能ナラシムル爲ニハ更ニ何等カノ立法行爲ニ俟タサルヘカラス即チ實際ニ於テ此ノ儘實施シ得サル狀態ニアリ自然當分ハ臨時政府時代ノ移民入國規則ヲ其ノ儘繼續實行スルノ外ナキ處憲法正文ニハ免ニ角制限ノ文字實在スルヲ以テ反對論者ニ氣兼シ外部ニ對シテハ尙研究中ナル名目ノ下ニ從來通り移民ヲ繼續シ今年末十一月、十二月ノ交ニ至レハ海賈ニ對シ從來通り來年度ノ移民ノ許可ヲ與ヘラルモノト豫想セラル

而シテ一般政界ニ於テハ既報ノ通り在野黨ノ大同團結計畫セラレ居リ共同ノ政綱トシテ新憲法改正ノ必要ヲ擧ケPartido Nacional Revisionista ハ<sup>(ア)</sup>テ黨名タラシメントシ希望條項中ニハ移民條項ヲモ含ミ居ルカ如シ來月ノ選舉戰ニ於テ如何ナル程度ニ政府與黨ニ肉薄シ得ルヤハ頗ル興

味アル問題ナルカ假令反對派力勝チ得スツルモ伯國憲政

史ニ於テ未曾有ノ有力ナル反對派ナルハ疑無キカ如シ

反對黨ノ形勢右ノ如クナル上政府首腦タル大統領ハ御承知

ノ通り素ヨリ我移民ニ好意ヲ有スルモ唯憲法制定ノ當時臨

時政府長官トシテ實力衰ヘ如何トモ爲シ得サリシ次第ナル

ヲ以テ我方ニ對シ大体惡シカラスト看做スヲ得ヘク從テ伯

國朝野ノ形勢ハ今猶一般ニ我移民ヲ歡迎スルモノト云フヲ

得ヘシ

但シ茲ニ注意ヲ要スル點アリ蓋シ南北亞米利加諸國ニ於テ

移民ハ國內問題ナリトシ居リ伯國ニ於テモ此ノ點ニ關シ國

外ヨリ來ル刺戟<sup>(刺)</sup>ニ對シテハ極メテ敏感ニシテ殊ニ近年國家

主義旺盛ノ影響ヲ受クル處少カラス過般ノ憲法制定議會ニ

於テ二分條項ノ通過ハ「ミゲル、コウト」博士個人ノ勢力

大ナリシニモ其ノ一因ニ相違ナキモ三月下旬以來我國ヨリ

來ル報道カ漸次帝國政府カ何等カ憲法制定ニ關シ壓迫ヲ加

ヘツツアルカ如キ疑惑ヲ起サシメ日ヲ經ルニ從ヒ暗雲濃厚

トナリ五月二十三日ノ幹部會ニ於ケル農相「タボラ」ノ國

際壓迫云々ノ言ヲ見ルニ至リ殆ント決定的トナレル次第ナ

リ此ノ點ハ今後移民問題ノ取扱上特ニ御注意アランコトヲ

希望シテ止マス

右ノ外我移民ヲ送ルニ當リ從來ノ如ク徒ニ數ノ多キヲ競フ  
カ如キコトナク嚴選主義ヲ執リ之ヲ指導スルニ伯國同化主

義ヲ以テシ且聖州偏住ヲ避け出來得ル丈ヶ各州散在主義ヲ

執リ同時ニ貿易増進ニ努ムルニ於テハ猶當分ハ我移民ヲ繼

續シ得ヘク將來勞働者ノ勢力ヲ增加シ海外移民入國ヲ一般

的ニ制限禁止セラルル日來ル場合ハ之ヲ別トシ少クトモ人

種的差別待遇ニ依ル我移民排斥ハ今ノ所成功スルコト難カ

ルヘシ

本使伯國在勤二箇年餘ノ間事所期ト違ヒ遺憾ニ堪ヘサルモ

ノアリト雖十三日任國ヲ離ルルニ當リ我移民問題ハ前來述

フル如ク必シモ悲觀スヘカラサル次第ヲ報告シ得レハ聊

カ欣幸トスル所ナリ

517 昭和9年10月22日 広田外務大臣より  
在ブラジル内山臨時代理大使宛(電報)

移民制限法制定の背後にある米国策動説につ  
き回電方訓令

本省 10月22日後6時30分発

## 第一五一號

貴電第二八六號後段ノ一二ニ關シ

伯國ノ日本移民制限運動ノ背後ニ米國筋ノ策動アルヤノ風  
評ハ一、二本邦新聞ニ傳ヘラレタルモ右ニ關シテハ未タ何

レノ方面ヨリモ適確ナル報道ニ接シ居ラサル處(サンパウ

ロ來信六月十九日附機密公第一五三號及七月十八日附公第

一八五號ニ援用ノ演說乃至論評等ニテハ日本ニ對シ特ニ非  
友誼的ナル點乃至裏面策動ノ憑據ヲ擗ミ難シ)若シ貴電ノ  
通貴地外交團内ノ常識ナリトスレハ我方トシテ相當考慮ヲ  
要スル義ニ付果シテ斯ル推斷ノ根據タルヘキ何等カノ事實  
存スル次第ナリヤ回電アリタシ

サンパウロヘ暗送アリタシ

~~~~~

518 昭和9年10月25日 広田外務大臣より  
在ブラジル内山臨時代理大使宛(電報)

新任ブラジル大使との打合わせのため排日防遏

および移民制限対策等に関する意見開示方訓令  
付記一 十月三十一日発在ブラジル内山臨時代理大使

より広田外務大臣宛電報第三二一号

## 右事情報告

二 作成日不明、亞米利加局第一課試案

「伯國憲法ノ外國移民一分制限條項實施對策」

本省 10月25日後6時0分発

## 第一五四號

貴電第二九四號ニ關シ

本委員會ノ動向如何ニ依テハ我方ニ不利益ナル各種規定ノ  
成立スルコト無シトモ斷シ難ク貴官ニ於テモ篤ト對策ヲ講  
シ居ラル、コト、思考スルモ全委員會ハ素ヨリトレス協  
會コメルシオ紙トノ接觸乃至啓發ヲ始メ現議會及新選出議  
員等ニ對スル工作ニ就テモ慎重攻究ヲ要スヘク今後ニ於ケ  
ル排日防遏方並移民制限對策等ニ就テハ澤田大使出發前ニ  
篤ト打合セ置キ度キニ付本件委員會對策ヲ始メ右等ノ諸點  
ニ關シ貴見回電アリ度シ

(付記一)

リオ・デ・ジャネイロ 10月31日前着

貴電第一五四號ニ關シ(移民問題對策ノ件)

過般ノ總選舉ニ於テ元大統領「ベルナルデス」氏外知名ノ士多數ヲ含ム約八十名ノ反政府議員當選確實トナリ伯國未曾有ノ有力反對黨出現シ政界ノ前途頗ル不安我方對策ニモ具體的對策上申困難ナル事情アルモ御訓令ニ從ヒ左ノ通り回答申上ク

第一、我方一般方針トシテ憲法改正ノ際二分條項ヲ削除セシムルコト及(第)一二一條補款第七ノ施行細則ヲシテ成ルヘク我利益ヲ害シ又ハ我移植民ノ活動ニ支障ヲ來スコトナカラシムル様努力スルコト

A、二分制限ニ付テハ

イ、憲法論トシテ理論的ニ之カ削除ノ必要ヲ論セシメ一般識者ノ啓發ニ資スルコト

右ニ關シテハ既ニ某伯國人著述寄稿(文)近々出版廣ク發賣ノ筈

ロ、一般外國移民並ニ日本移民擁護及必要論ノ情勢及普及ニ關シ伯國人ノ運動ヲ助成スルコト

ハ、二分制限撤廢又ハ之ニ類似ノ方法ニ成功スル迄ハ少クトモ我方移民ノ素質ヲ從來以上ニ嚴選シ純農者ヲ主トスル

不健在ナル分子迄モ送り出斯時ハ必ス前記制限撤廢運動ニ支障ヲ起シ同時ニ都會集中及素質低下敗殘者續出等ノ惡結果ヲ起スヘキニ付對内策モ或程度迄ハ已ムヲ得ストシ成ルヘク將來ノコトヲモ慎重考慮シ對策ヲ講スルコト肝要ナリトナルヘシ又今日數ノ增加ノミニ意ヲ用ヒ見越シ輸出のニB、補款第七ニ付テハ排日政策カ現實ニ現ハレ得ヘキ重要な問題ナルニ付

イ、不敢政府當局ノ注意ヲ喚起シ置クト共ニ信用アル委員ニ對シ充分資料ヲ提供シ草案ヲシテ我ニ不利ナラサル様措置セシムルコト

ロ、萬一不幸ニシテ直接我利益ヲ害シ又ハ不公正ナル草案カ議會ニ提出セラレルカ如キ場合ハ政府要路者ニ嚴重交渉スル外有力ナル議員多數ヲ動シ之カ是正ヲ期スルコト

ハ、移民ノ擇擇及同化ノ意義ニハ議論多(キ)モ伯國ノ現狀

第二、從來日伯ノ關係力主トシテ移民ニ限定セラレタルハ日伯國交上ノ缺陷トモ云フヘク此ノ際通商文化交換智的協力等ニ對シ大ニ意ヲ用ヒ日伯關係ヲシテ成ルヘク廣範圍タラシムルコト

イ、通商經濟使節派遣ノ實現

ニ(適スル)農業移民ヲ主トシ移住後ハ伯國ノ都市ニ於ケル善良ナル住民タルニ適スル様思想的ニモ萬違算ナキ様現地及母國ニ於テ指導徹底ニ努力スルコト

(欄外記入一)第三、從來日伯ノ關係力主トシテ移民ニ限定セラレタルハ日伯國交上ノ缺陷トモ云フヘク此ノ際通商文化交換智的協力等ニ對シ大ニ意ヲ用ヒ日伯關係ヲシテ成ルヘク廣範圍タラシムルコト

ノ專攻者ヲシテ伯國並ニ南米先住民族ノ根本的研究ヲ遂ケシムルカ如キハ世界的ニ意義アル事業ニシテ同時ニ我國ニ

取り是非(實)行ヲ要スル國際政策ノ一部ナリト信スハ、聖市日本病院ハ文化施設トシテモ直接移民對策トシテ

モ是非來年度中ニ工事ニ着手シ得ル様致度シハ、當大使館ハ歴史古キモ備品トシテハ我文化ヲ表徵シ得ルモノ皆無ナリ當國ニ於テモ近來我繪畫骨董ヲ初メ一般美術ニ對シ追々認識ヲ高メツツアル際我公館ニ純日本文化ヲ

表現シ得ヘキ何等ノ施設無キハ遺憾ニシテ右施設ハ日本觀光者ノ誘致ニ資シ又當館ト當地上流社會トノ接觸ヲ廣ク且密ナラシムル爲ニモ又軍國日本ノ外ニ平和ト趣味ノ日本アールヲ一般ニ紹介スル爲ニモ極メテ必要ナリ

ホ、平易ナル日本ノ歷史地理及文學ノ翻譯紹介、右ハ現「リオ」博物館長ニシテ移民委員ナル「ロケット、ピント」氏ノ注意ナルカ極メテ適切ナル忠告ト信ス

ヘ、日本美術展覽會(第一回ハ嘗テ文部省後援大倉男カ米、伊兩國ニテ行ヒタルカ如キ日本畫ヲ主トス)水泳庭球等運動選手ノ巡遊ヲ年中行事的ニ年一回適當按排實行スルコトハ日本宣傳トシテ効果頗ル多シ

ト、伯國人訪日觀光團ニ對シ一定セル便宜供與ノ方法ヲ講シ之ヲ獎勵スルコト

第三、本官着任後丹念ニ各新聞社ヲ歷訪シ「コメルシオ」社長ニモ面會ヲ希望シタルカ追テ日取ヲ回答スヘシトテ之ヲ回避セル儘トナリ其ノ執拗ナル態度ハ裏面ニ何モノカノ存在ヲ想像セラレ今後モ直接之ニ突當リテハ其ノ態度(ヲ)改メサルヘシト思ハルニ付我方ノ社交的地位ノ向上擴大ヲ待チ全面的ニ之ヲ牽制スルニ如カスト存ス「トーレス」

(協力) 教會書記長ニ對シテモ同斷ナリ(社交ハ平和外交ノ一大要素ナルコトニ異論無キ處在伯外務省員ノ現給與ハ餘リニ此ノ主義ニ反ス)

第四、現議會ハ目下假死ノ状態ニ在リ且今後モ豫算問題以外ニハ大ナル役割ヲ力メサルヘシト思考セラル處新選出議員トノ接觸ハ最大切ナルニ付此ノ際凡ラユル機會ヲ利用シ知己ヲ求ムル要アリ尚聖州憲法審議會ハ年内ニ開會ヲ見ルヤモ知レス同議會ノ空氣ハ我移民ニ最關係深キニ依リ友人トノ舊交ヲ溫ムル名義ニテ臨機同地ニ出張ノ要アルヤモ

知レス又十二月末ヨリ四月迄知名ノ氏カ多ク避暑スル爲避暑地(ニ)彼等ヲ訪問シ打解ケタル會見ヲ遂げ置クコトモ必要ナルヘシ以上ノ卑見疎漏ナカラ當面ノ問題モ鮮カラサルニ付御叱正ノ上成ルヘク實行ニ移サルル様切望ス

(欄外記入二)

宅嶋博士?

(欄外記入二)

何カヨキ考案ナキヤ

(付記二)

伯國憲法ノ外國移民ニ分割限條項實施對策

(亞米利加局第一課試案)

一、實施緩和策

施行細則制定上ノ工作

排日分子緘口策

細則制定上ノ我希望達成策

我希望ノ内容如何

第一案 我方ニトリ事實上效力ナカラシムルコト、之カ爲ニハ一九三一年來ノ外國移民制限令並一九三四年五月ノ外國人入國取締令等ニ表明セラレタル事情即チ伯國ハ今後尚農業資源ノ開發ヲ要シ農業移民ノ缺クヘカラサルコトニ重點ヲ置キ

移民ノ定義中ニ於テ若ハ移民數ノ算定ヨリ農業者ヲ除外スルカ又ハ北米移民法中ノ商業者(國際)ノ除外條項ノ例ニ倣ヒ農業者ノ除外條項ヲ設定セシムルコト

第二案 右ヲ困難トスル場合ニ於テハ移民ノ家族ハ之ヲ非移民トスルコト蓋シ一九三四年五月制定ノ外國人入國規則ニ於テハ既ニ家族ヲ非移民トシテ取扱居レハナリ右ニ

移民ヲ優先渡航セシムルコト

二、將來邦人發展ノ蛹タルヘキ優質移民並將來有爲ノ青年ヲ選擇優先渡航セシムルコト

三、右諸案ハ自然海興ノ業務ニ重大ノ影響ヲ來スヘク同社ノ更生改造ニ就キ政府ニ於テ何等講策スルコト

四、入國數ノ制限勵行ノ場合ノ次ニ來ルヘキハ在伯邦人ノ權益制限ノ問題ナルヘキニ付此ノ點豫メ防遏工作ノ用意ニ取り掛ルコト

(欄外記入)

昭和九年十二月初旬小官思付ノ案トシテ拓務省武田課長ニ手交

セルモノ 坂本

~~~~~

三、最惡ノ場合ノ對策

細則ヲ以テ憲法規定ヲ嚴重ニ施行セラルコトモ爲リ

何等緩和ノ望モ無キ場合ニ於テハ前項第三案ハ已ムヲ得

サルヘキ處尙同案ハ伯國側耕主等ノ希望ニ應シ得ルトス

ルモ我方ノ目的ニ適ハサルコトアリテハ面白カラサルニ依リ先ツ次ノ趣旨ヲ充スコトヲ期スルコト

一、我呼寄者(含移住組合南拓等邦人關係者)ノ希望ヲ満ス

519 昭和9年10月29日 重光外務次官より

小栗(一雄)警視總監他宛

ブラジルにおける移民制限および今後の移民

送出について

米一機密合第四三九二號

昭和九年拾月廿九日

各府縣知事殿  
北海道長官殿  
警視總監殿

伯國憲法ノ外國移民制限條項ト本邦移民ノ取扱ニ

關スル件

本年七月十六日公布ノ伯國新憲法中ノ一條項ヲ以テ各國ヨリノ毎年ノ移民入國數ヲ最近五十年間ニ伯國內ニ定着シタル當該國人總數ノ一分ニ制限スルニ至レル經緯ニ就テハ當方ヨリ配布ノ月刊移民情報ニ依リ御承知ノ通ナル處右條項案提出ニ當リ之ヲ支持シタル議員中ニハ案ノ内容影響等ヲ辨セス提案者ニ對スル義理合上漫然贊成セル者不尠又民間側其ノ他新聞紙等ニ在リテモ一部排日紙ヲ除キ何レモ同條項ハ伯國經濟ノ實狀ニ即セサルモノトシテ反對ノ意嚮強ク政府當局モ實際的見地ヨリシテ之カ善後措置方攻究中ノ模様ニテ今日迄未タ同條項ノ實施ニ必要ナル附屬法令ノ制定ヲ見ルニ至ラサル實狀ニアリ。

他面我方ニ於テハ夙ニ同條項案ノ憲法議會通過前ヨリ一再ナラス伯國政府ニ對シ本邦移民カ伯國富源ノ開發ニ貢獻シ

ツツアルコト、伯國側ノ希望スル優良農業移民ノ選擇ニ努力シ來レルコト等ヲ説明シ本件制限條項ノ成立カ日本側關係諸方面ニ不利ナル影響ヲ及ホスヘキハ勿論我國民ノ感情ヲ刺戟シ彼我兩國ノ親善ノ障礙ト爲ル虞アル所以ヲ同政府ニ縷々申入レ其ノ注意ヲ喚起スルト共ニ善處盡力方ヲ求メ又同條項ノ成立公布ニ際シテハ右趣旨ヲ繰返ヘシ善後措置方重ネテ申入ルル所アリタリ。爲ニ同政府當局トシテハ充分ニ我方ノ意嚮乃至立場ヲ諒認セルモノノ如クナルモ何分ニモ複雜セル同國政情ヲ顧慮シ殊ニ外國側ノ干渉ニ依リ該條項ノ實施ヲ左右セラレツツアリトノ非難ヲ招クコトアルヘキヲ虞ルル爲メニヤ新政府成立後モ未タ右實施振ニ關スル方針ヲ明示スルニ至ラサル次第ナリ。然ルニ、海外興業株式會社其ノ他各方面ノ情報ヲ綜合スルニ兎モ角同社カ本年度誘入ノ許可ヲ取付ケ居ル數ノ限度ニ於テハ從來誘入シ差支無キ模様ニテ現ニ新憲法ノ公布實施後今日ニ至ル迄本邦移民ハ每船支障ナク渡航入國シツツアリ、來年度ノ誘入移民數ニ關シテハ未タ伯國當局ノ許可ヲ取付クル運ニ至ラサルモ憲法規定ノ實際ノ運用上ニ於テ入國制限ニ對シ或程度ノ緩和ヲ豫期シ得ベキヤノ情報モアリ。絞上ノ事情御

含ミノ上海外興業會社ノ移民募集等ニ就テモ追テ何分ノ義申進スル迄ハ差向キ大体從來通りニ御措置相成度ン。尤モ、

今後日本側ノ態度カ伯國内排日分子ノ口實ニ利用セラルルカ如キコトアリテハ面白カラサルニ付地方新聞雑誌等ノ記

事ニ就テハ特ニ御配意相成ト共ニ海興ノ地方代理人ヲシテ

努メテ優質農業移民ノ選擇ニ意ヲ用ヒシムル様可然御善導相成度此段申進ス。

本信送付先 北海道長官 警視總監

各府縣知事

~~~~~